

市民意見リーダー 調査結果報告書

（ 2018 年 度 ）



郡 山 市

< 目 次 >

I 調 査 概 要

1. 調査の目的	1
2. 調査の項目	1
3. 調査の設計	1
4. 集計・分析にあたって	2
5. グラフの種類	2
6. 回収率	2
7. 回答者の属性	3
(1) 性別	3
(2) 年代別	3
(3) 職業別	3
(4) 居住年数別	3
(5) 居住形態別	3
(6) 地域別	4
(7) 現住所の直前の居住地別	5
(8) 現居住地の選定理由別《転入・転居者》	5
8. 回答者の属性《地域別集計》	6

II 調 査 結 果

1. 郡山市の住みやすさなどについて	13
(1) 住みやすさへの評価	13
(2) 今後の居留意向	16
2. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度	19
(1) まちづくりへの満足度結果一覧	19
(2) これからの取り組み重要度結果一覧	23
(3) 施策の優先度《満足度と重要度の関係》	26
(4) 分野別属性別満足度結果	28
(5) 分野別属性別重要度結果	44
3. 連携中枢都市圏について	46
(1) こおりやま広域圏の認知状況	46
(2) こおりやま広域圏と関わる場面	48
(3) 近隣市町村と連携を深めるべき分野について	53
4. 市への意見や要望など	59
【分野Ⅰ】産業・仕事の未来	59
【分野Ⅱ】交流・観光の未来	59

【分野Ⅲ】学び育む子どもたちの未来	60
【分野Ⅳ】誰もが地域で輝く未来	60
【分野Ⅴ】暮らしやすいまちの未来	61
【分野Ⅵ】横断的取組	62
【分野Ⅶ】基盤的取組	62

(付) 調 査 票 様 式

調査票	63
-----	----

I 調 査 概 要

1. 調査の目的

時代とともに変化する市民意見の動向と現在の多様なニーズを把握し、今後の本市施策、事業の検討、推進、評価等の基礎データとして活用するために実施しました。

2. 調査の項目

- (1) 住みやすさについて…質問 2 問
- (2) まちづくりについて（郡山市まちづくり基本指針に掲げる施策を基本とした 7 分野 43 項目についての満足度）…質問 43 問
- (3) これからの取組について（郡山市まちづくり基本指針に掲げる施策を基本とした 7 分野 43 項目についての重要度）…質問 1 問
- (4) 連携中枢都市圏について…質問 3 問
- (5) 対象者の基本属性について…質問 7 問 補助質問 1 問
- (6) 市への意見や要望など（自由記載）…質問 1 問

3. 調査の設計

- (1) 調査地域：郡山市全域
- (2) 調査対象：郡山市内に在住する満 18 歳以上の人
- (3) 標 本 数：1,500 人（男性 752 人、女性 748 人）

<内訳>

		標 本 数	性 別		年 代 別						
			男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
全 体		1,500	752	748	47	200	239	280	254	279	201
地 域 別	旧市内	582	287	295	15	82	90	110	107	103	75
	富田	113	57	56	2	17	22	23	18	18	13
	大槻	146	73	73	3	17	24	28	24	29	21
	安積	154	76	78	4	20	26	30	24	28	22
	三穂田	22	11	11	2	2	2	4	4	5	3
	逢瀬	23	12	11	2	2	2	3	4	6	4
	片平	27	15	12	2	3	3	5	4	6	4
	喜久田	54	26	28	1	7	10	12	8	10	6
	日和田	47	24	23	2	6	8	9	8	8	6
	富久山	162	82	80	4	26	31	31	26	27	17
	湖南	18	9	9	2	2	2	2	2	4	4
	熱海	26	13	13	2	2	2	4	4	6	6
	田村	81	42	39	2	10	12	13	13	18	13
	西田	22	13	9	2	2	3	3	4	5	3
	中田	23	12	11	2	2	2	3	4	6	4

- (4) 抽出方法：住民基本台帳(平成 30 年 8 月 21 日現在)からの年代、地域を考慮した等間隔無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送による調査票の配布・回収、インターネットでの返信
- (6) 調査期間：平成 30 年 9 月 5 日～平成 30 年 9 月 20 日 (16 日間)
- (7) そ の 他：これまで「市民意識調査」として 2009 年度から実施。アンケートの回答は市民の皆様の意見としていただくものであることから、2018 年度から「市民意見レーダー」と名称を変更

4. 集計・分析にあたって

- (1) 図表中の「n」とは回答者総数（または該当者質問での該当者数）のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数です。
- (2) 数値（%）は単位未満を四捨五入してあるので、総数と内訳の計が一致しないこともあります。
- (3) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢があります。

5. グラフの種類

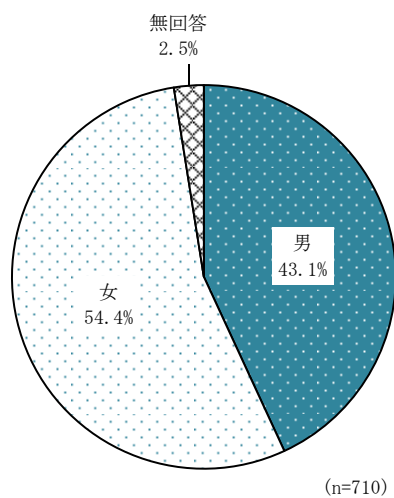
- (1) 棒 グ ラ フ：棒の長短で数量の大小を比較します。
- (2) 折れ線グラフ：時間経過を沿って数量の変化や傾向を示します。
- (3) 円 グ ラ フ：全体に対する各項目の構成比を示す際に使います。
- (4) 帯 グ ラ フ：全体に対する各項目の構成比を示す際に使います。異なる帯グラフを並べることで、項目の構成比の変化を捉えることができます。
- (5) 散 布 図：2 つの変量の相関関係を示します。横軸と縦軸にそれぞれ別の量を取り、データが当てはまる場所に点を打って示すグラフです。

6. 回収率

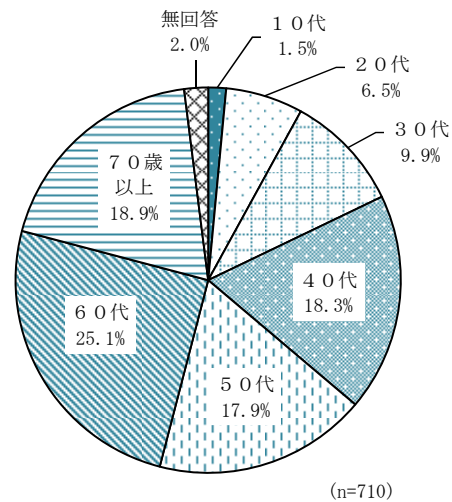
- (1) 有効回収数：710 件
- (2) 有効回収率：47.3%（対前年比 +0.9%）

7. 回答者の属性

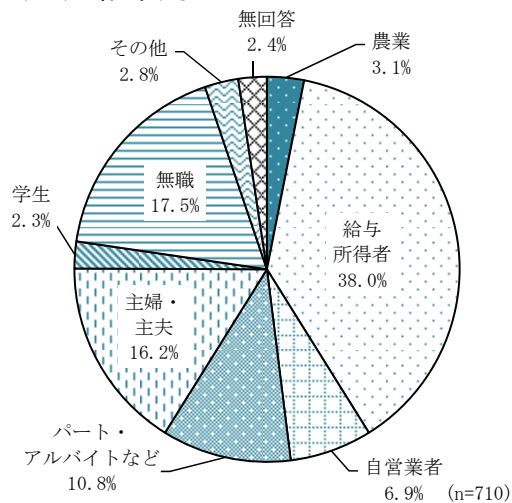
(1) 性別



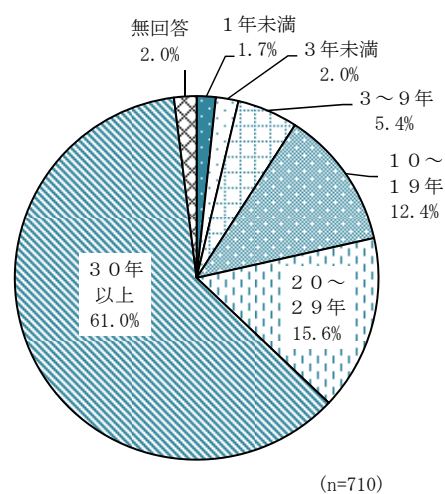
(2) 年代別



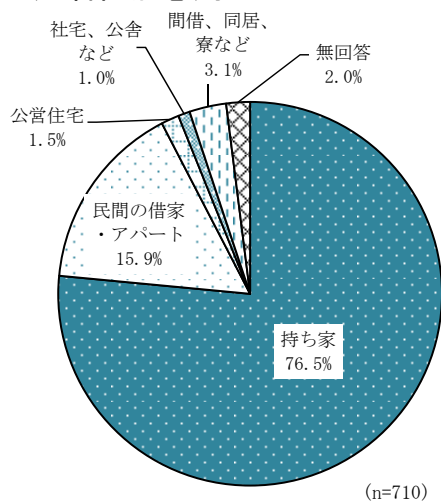
(3) 職業別



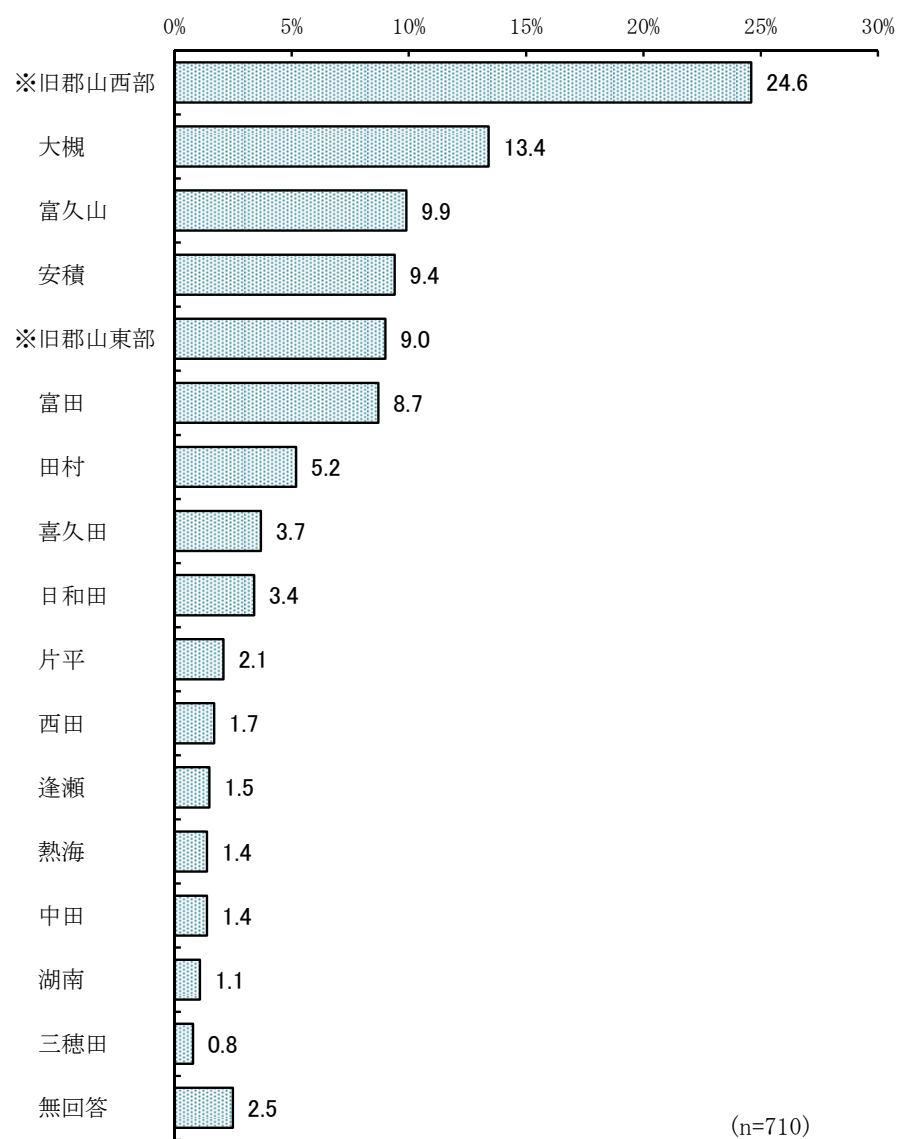
(4) 居住年数別



(5) 居住形態別



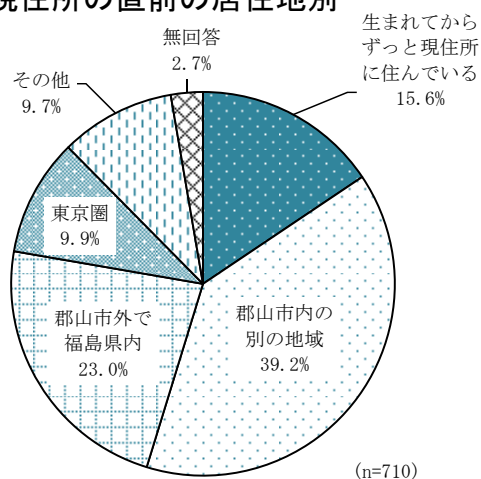
(6) 地域別



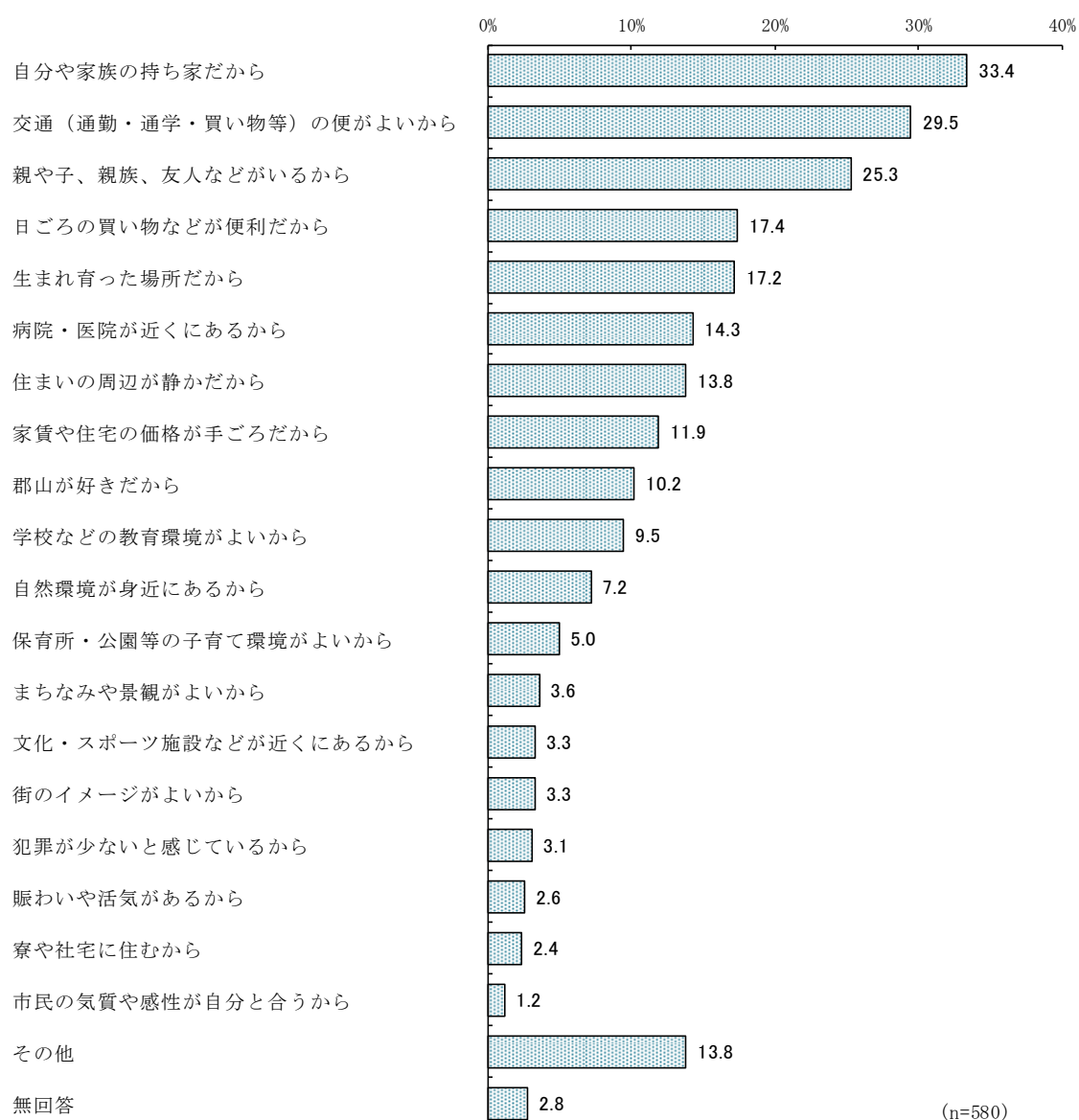
※ 旧郡山東部・・・芳賀・小原田・緑ヶ丘・東部地区など

※ 旧郡山西部・・・駅前・大島・久留米・菜根・開成・小山田地区など上記地区以外

(7) 現住所の直前の居住地別

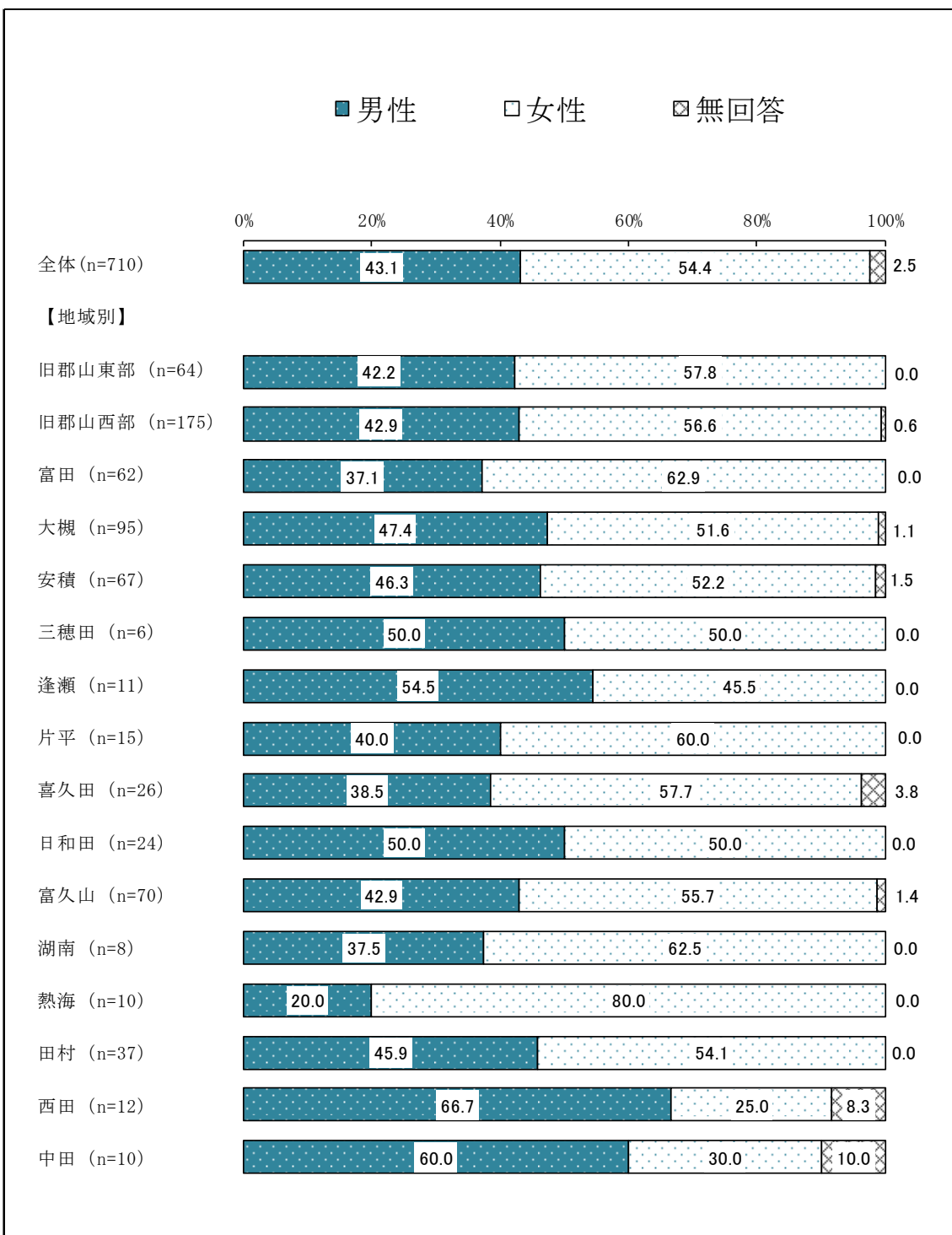


(8) 現居住地の選定理由別《転入・転居者》(複数回答)



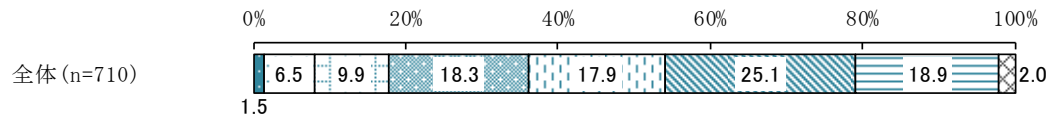
8. 回答者の属性《地域別集計》

【性別】

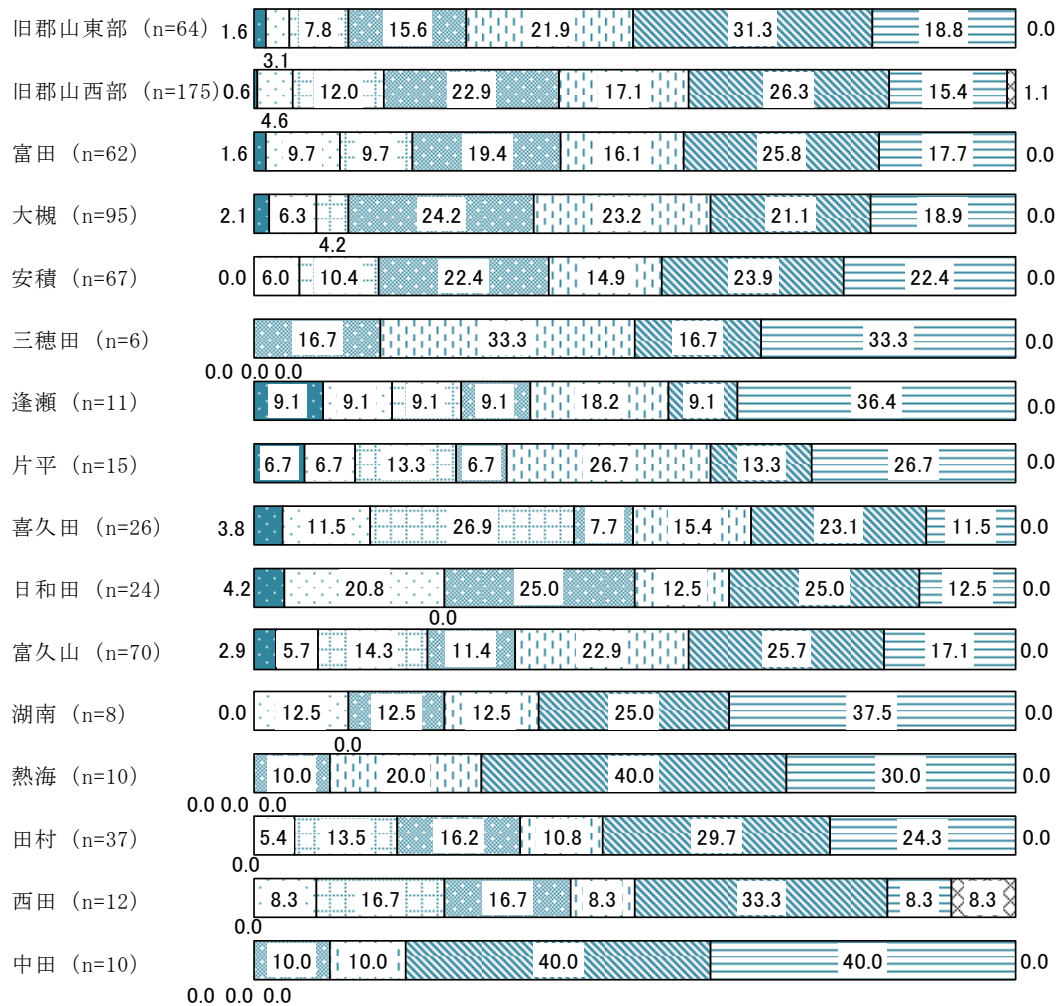


【年代別】

■ 10代 □ 20代 □ 30代 ■ 40代
 □ 50代 ■ 60代 □ 70歳以上 ■ 無回答



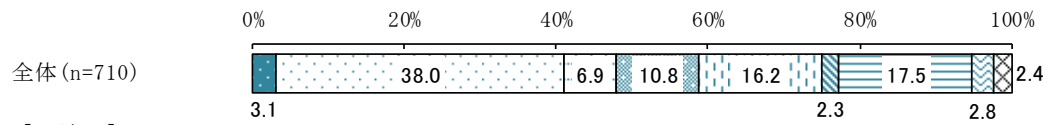
【地域別】



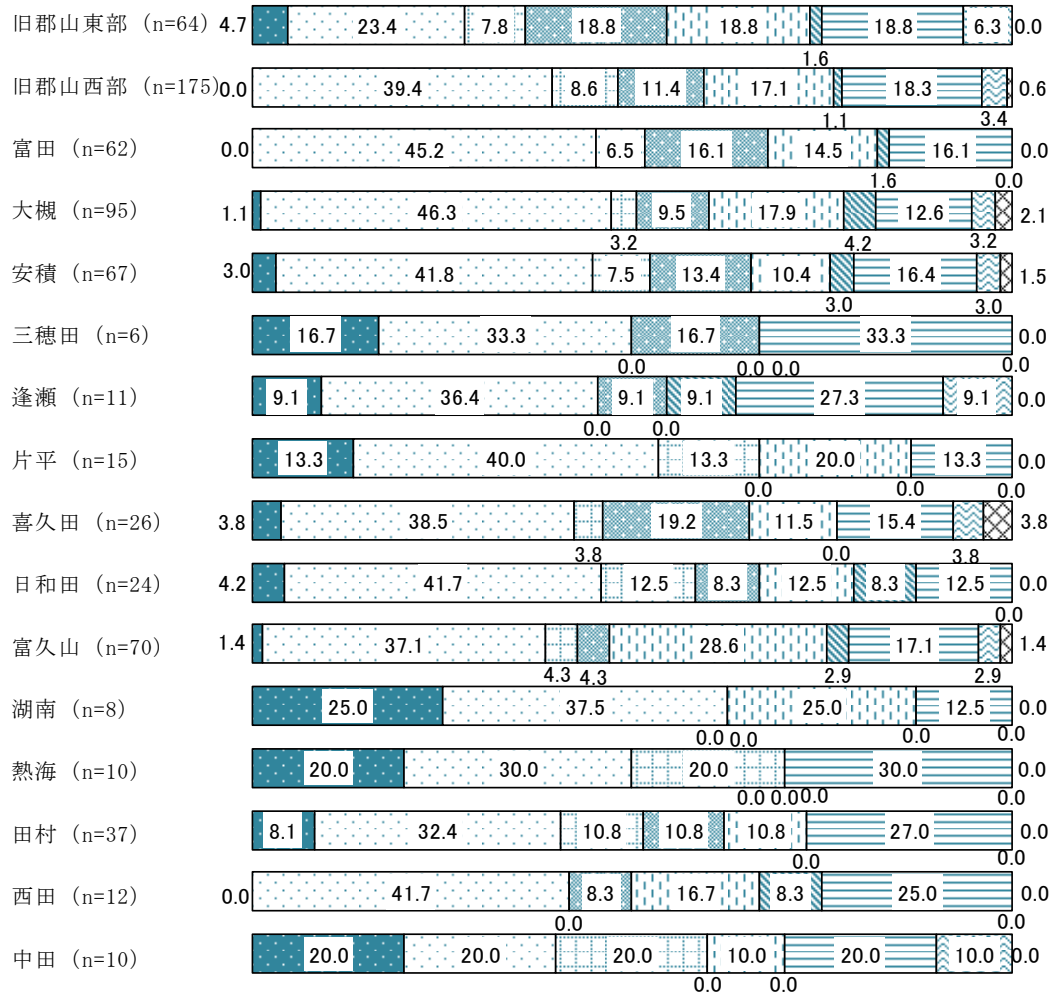
【職業別】

■ 農業
 ■ 自営業者
 ■ 主婦・主夫
 ■ 無職
 ■ 無回答

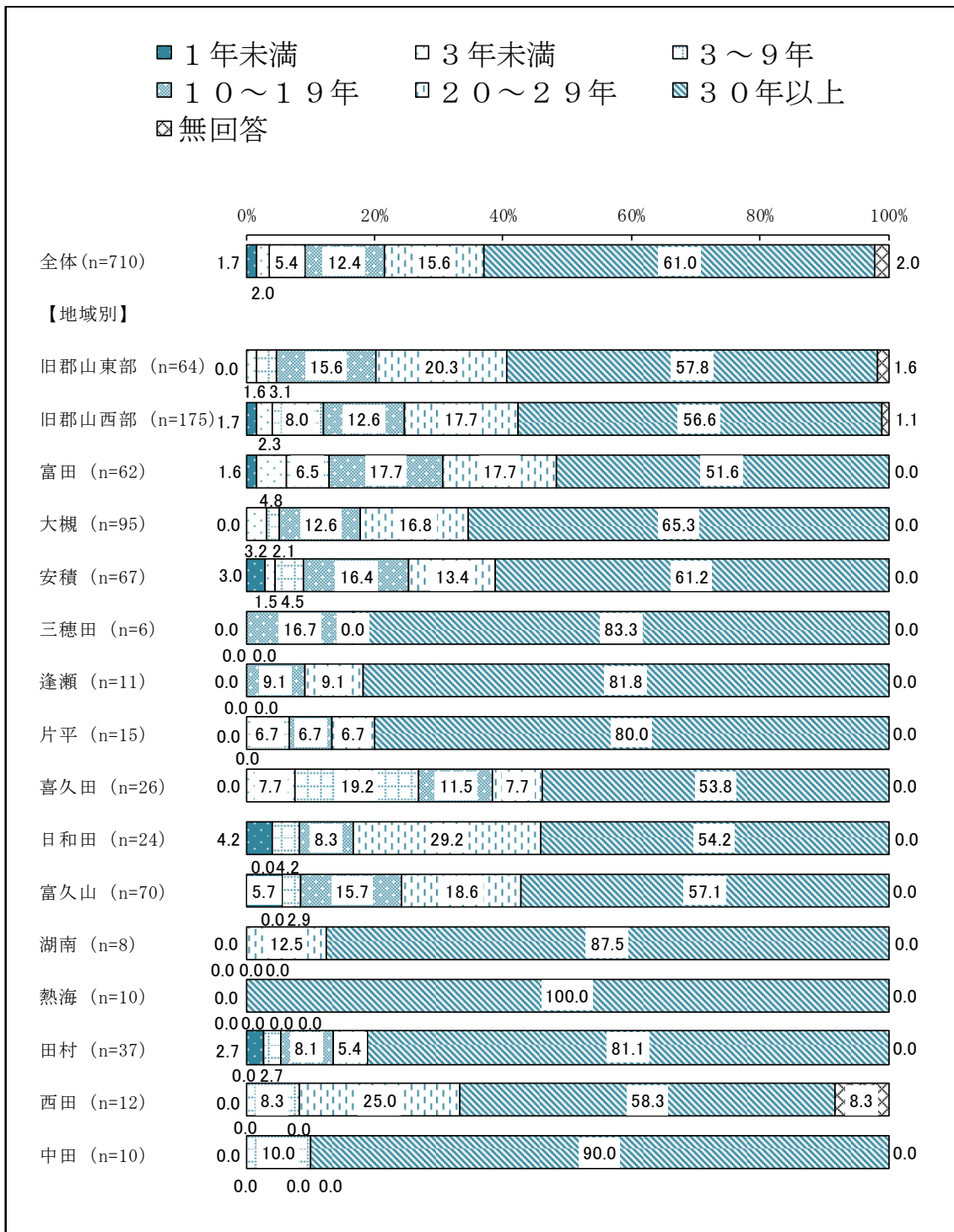
□ 給与所得者
 ■ パート・アルバイトなど
 ■ 学生
 ■ その他



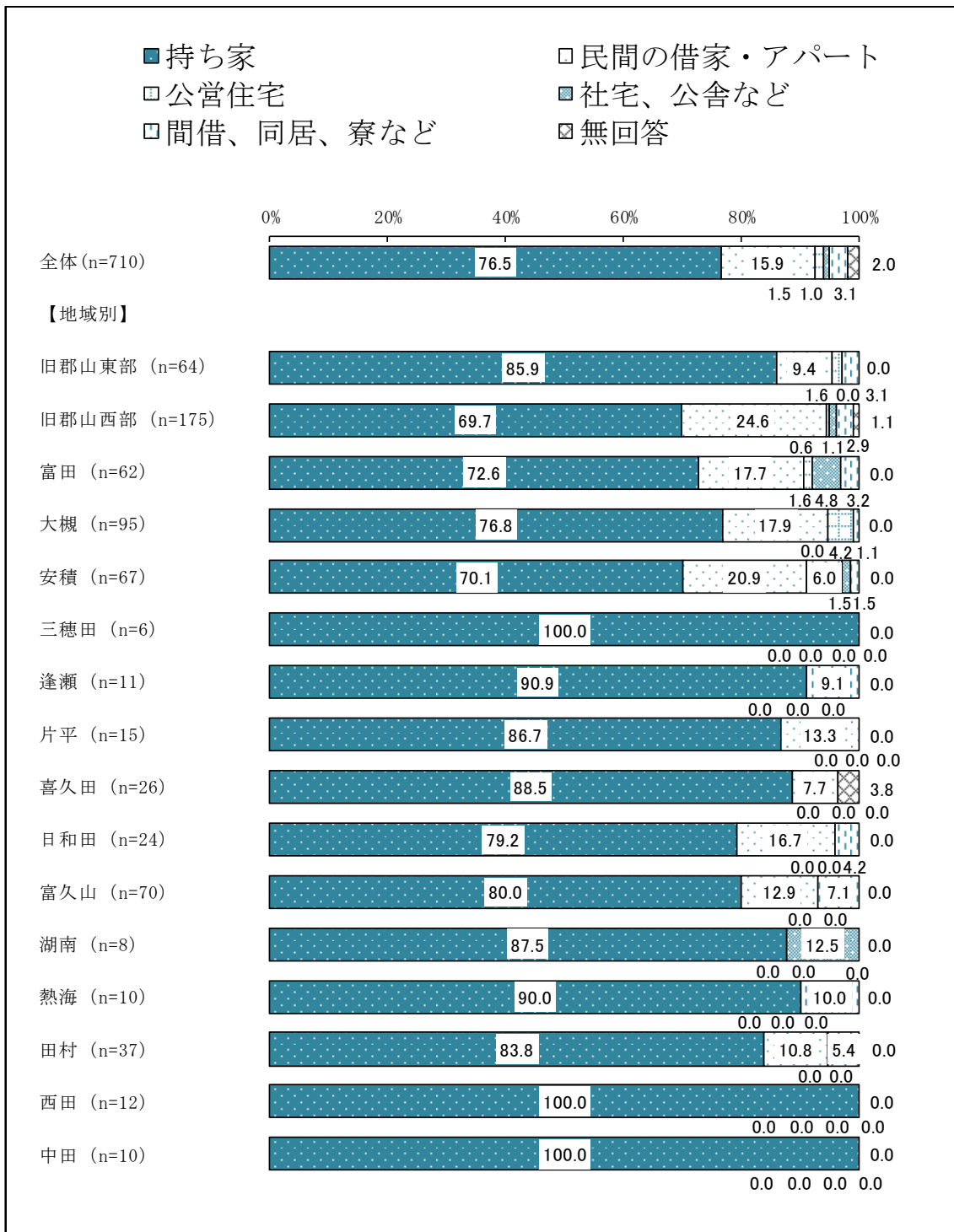
【地域別】



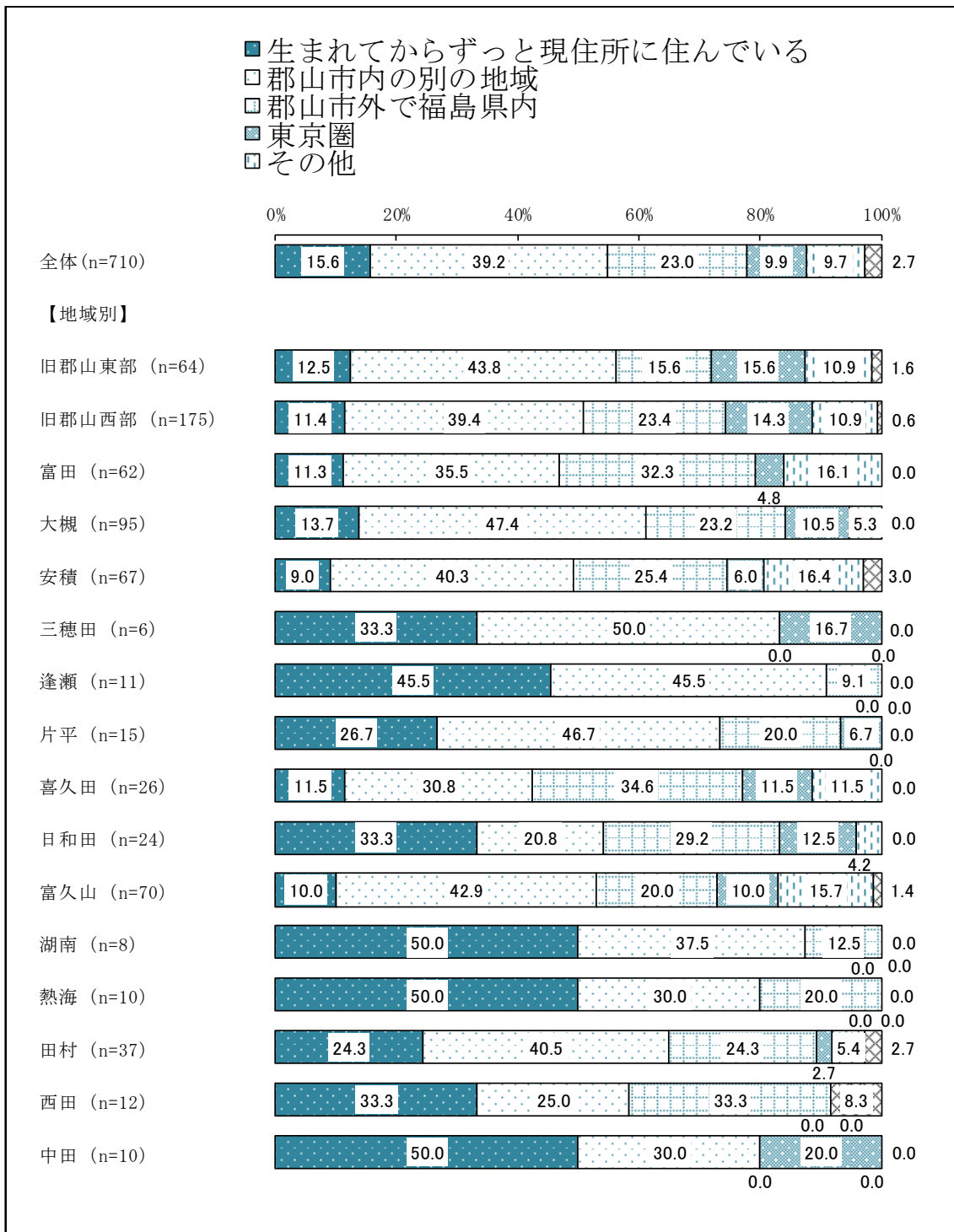
【居住年数別】



【居住形態別】



【直前の居住地別】

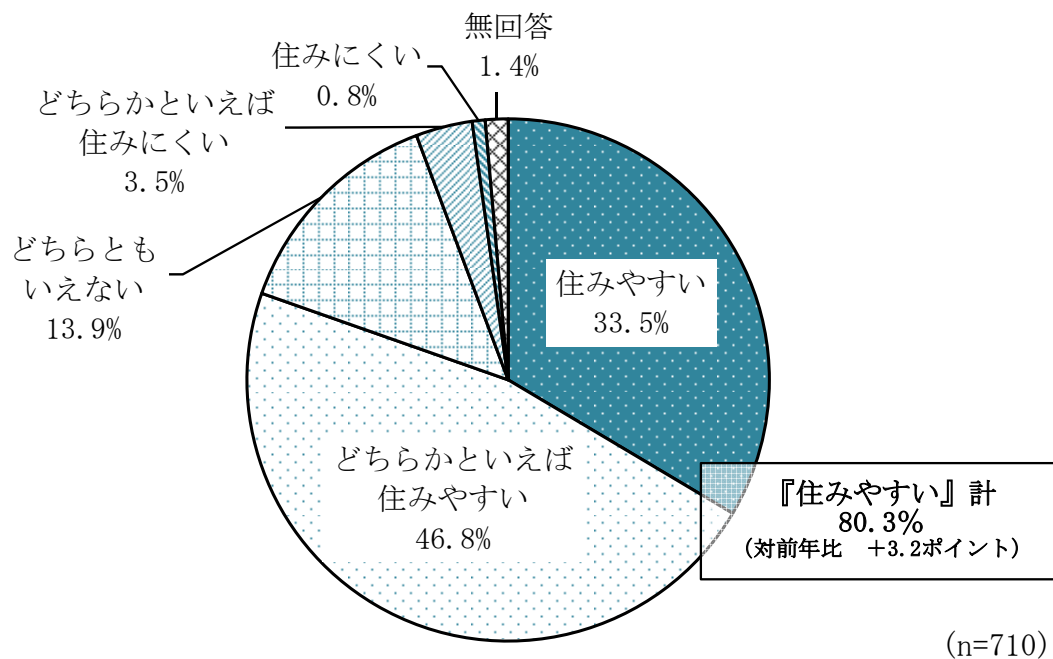


Ⅱ 調 査 結 果

1. 郡山市の住みやすさなどについて

(1) 住みやすさへの評価

問 まちの住み心地や郡山市への愛着等について、どのように感じていますか。
あなたにとって、郡山市は住みやすいまちですか？（○は1つだけ）



8 割の市民は郡山市を住みやすいまちと認識

【全体結果】

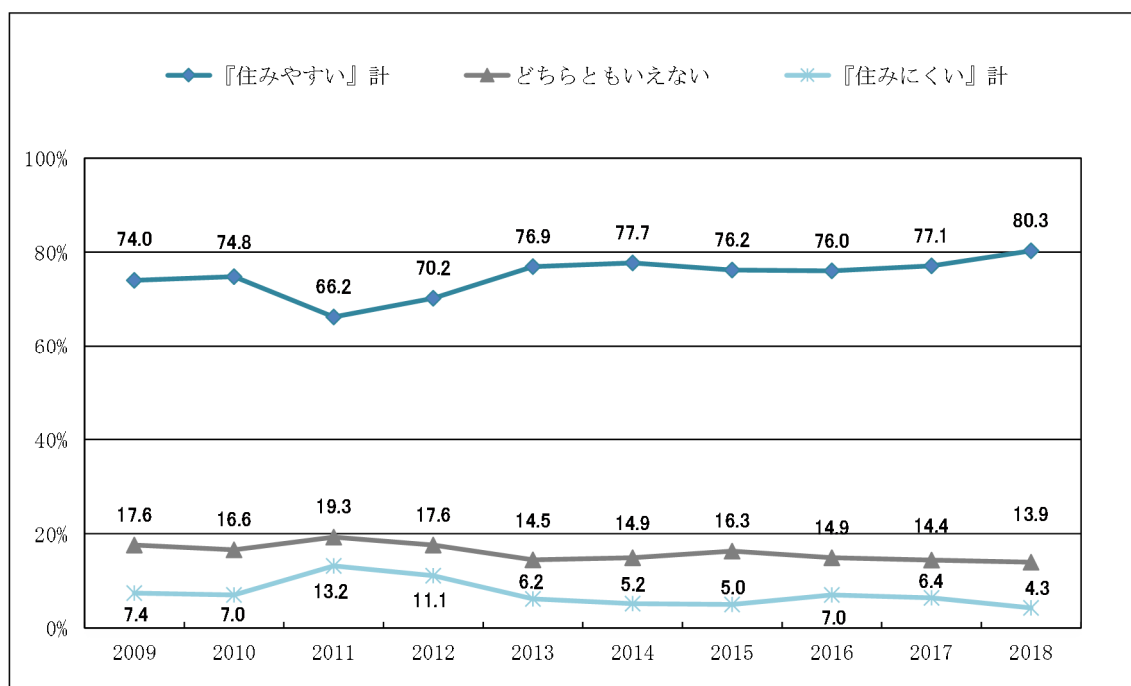
郡山市が住みやすいまちであるかどうかについては「住みやすい」（33.5%）、「どちらかといえば住みやすい」（46.8%）で両者を合計した『住みやすい』計（80.3%）が約8割を占めています。

一方、「どちらかといえば住みにくい」（3.5%）と「住みにくい」（0.8%）を合計した『住みにくい』計は5%程度（4.3%）となっています。

前年度調査に比べて、『住みやすい』計のポイントは3.2ポイント上昇しています。また、過去の調査結果との比較では、東日本大震災直後『住みやすい』計は低下したものの、その後復興が進み2013年からは震災前を上回り、今回初めて8割を超えました。

（図 1-1 参照）

図 1－1 住みやすさの評価（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 1-2 参照）

①性別

『住みやすい』計の割合は、女性（81.4%）の方が男性（78.7%）よりもやや高くなっています。

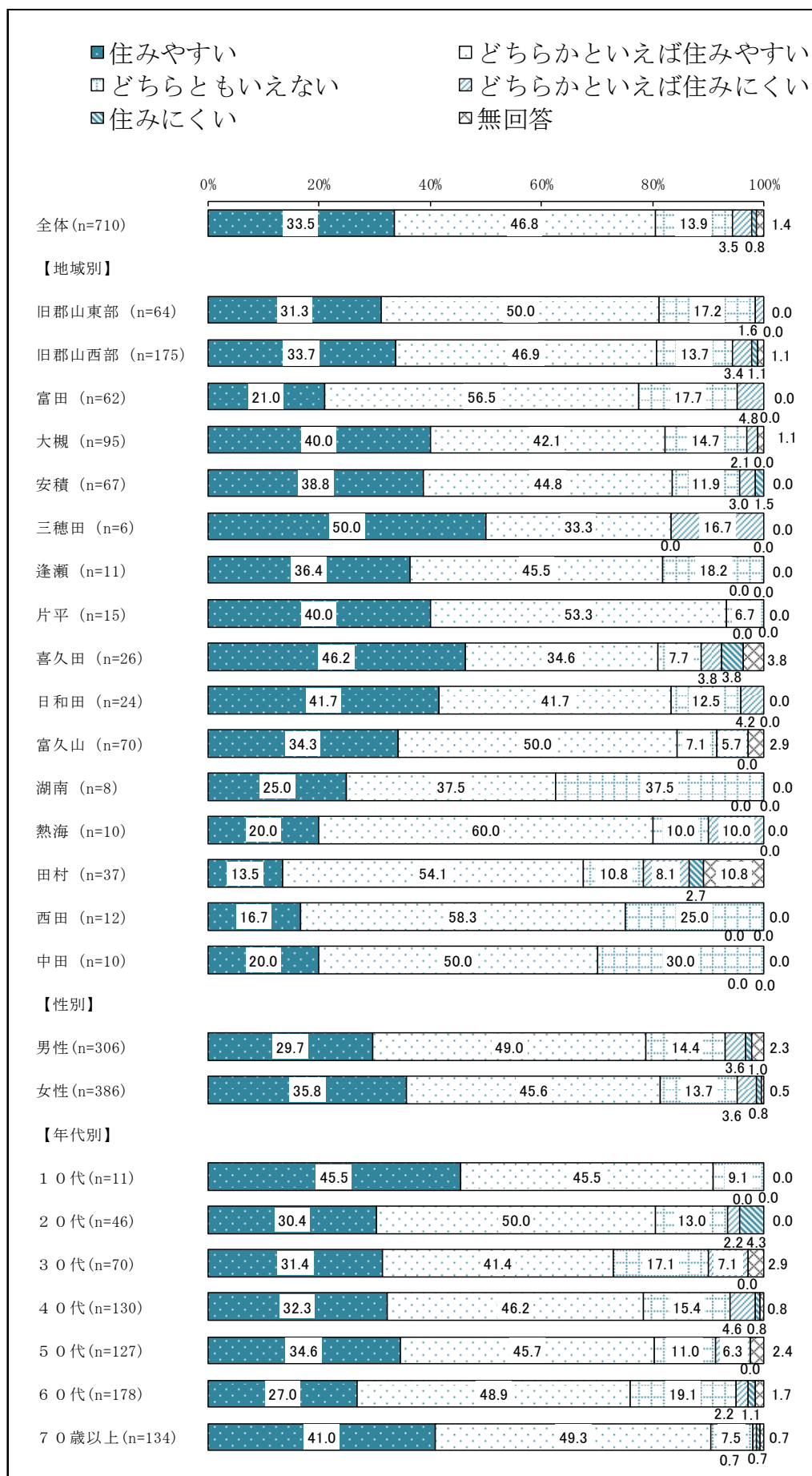
②年代別

『住みやすい』計の割合は、10代、20代、50代、70歳以上では8割を超え、10代（91.0%）、70歳以上（90.3%）では9割に達しています。

一方で、最も低いのは30代（72.8%）で、「どちらともいえない」「どちらかといえば住みにくい」の計（24.2%）が他の世代に比較して多くなっています。

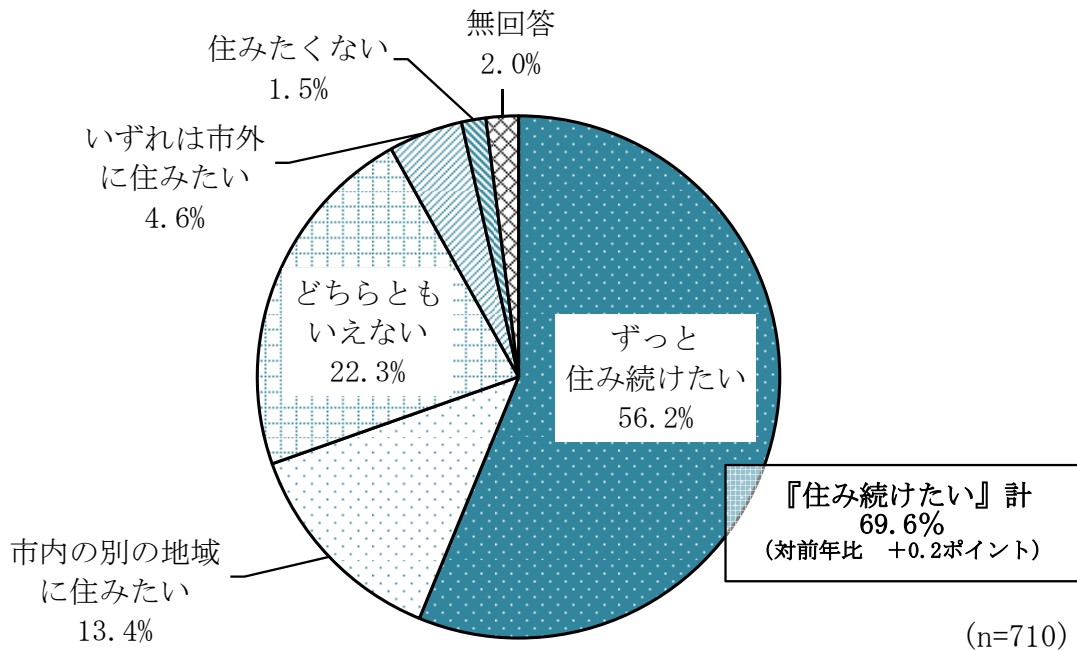
また、30代では「住みにくい」との回答は無かったが、20代で4.3%と他の世代に比較して多くなっています。

図 1-2 住みやすさの評価（地域別／性別／年代別）



(2) 今後の居住意向

問 あなたは、今後も郡山市に住みたいと思いますか？（○は1つだけ）



——— 7割の市民は今後も郡山市内に住みたいとしている ———

【全体結果】

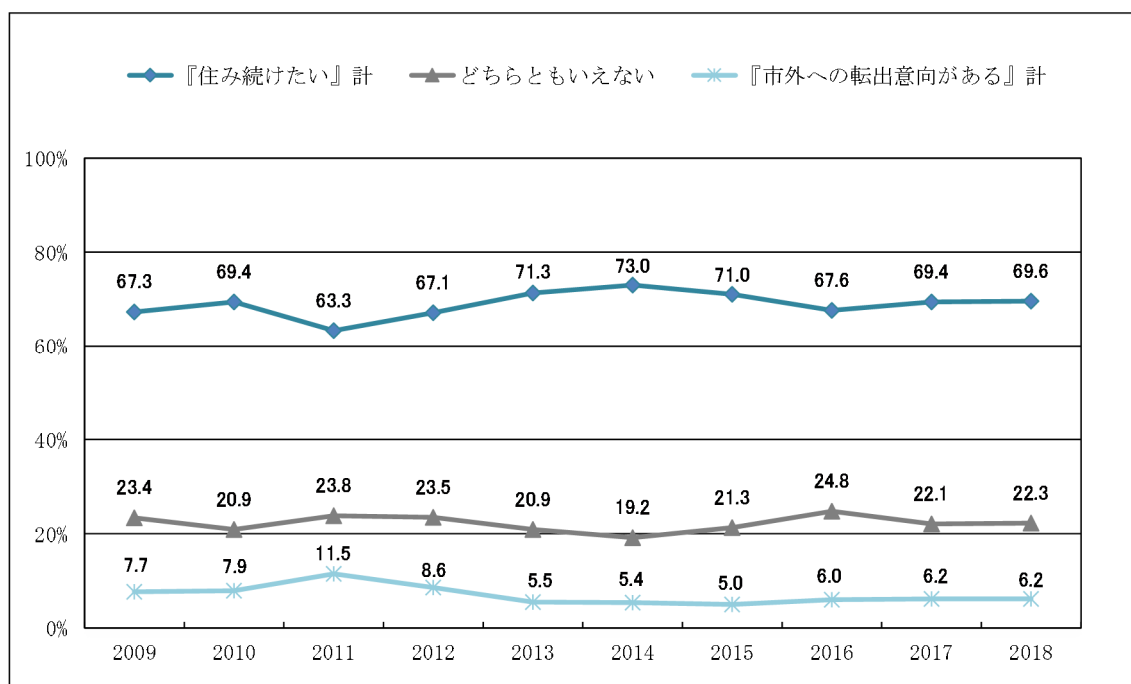
今後も郡山市に住みたいかどうかについては「現在の住所にずっと住みたい」(56.2%)、「市内の別の地域に住みたい」(13.4%)で両者を合計した『住みたい』計(69.6%)が約7割を占めています。

前項の『住みやすい』計と比較すると1割程度低く、「どちらともいえない」の割合が『住みやすい』計よりも1割程度増えています。

一方、「いずれは市外に住みたい」(4.6%)と「住みたくない」(1.5%)を合計した『市外への転出意向がある』計は5%程度(6.1%)となっています。

なお、過去10年の推移で比較すると、前項の〈住みやすさへの評価〉と同様、東日本大震災直後『住みたい』計は低下したものの、2013年以降、概ね7割前後で推移しています。また、『市外への転出意向』計は2011年をピークに減少し、2013年以降、6%前後で推移しています。(図1-3参照)

図 1－3 今後の居住意向（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 1-4 参照）

①性別

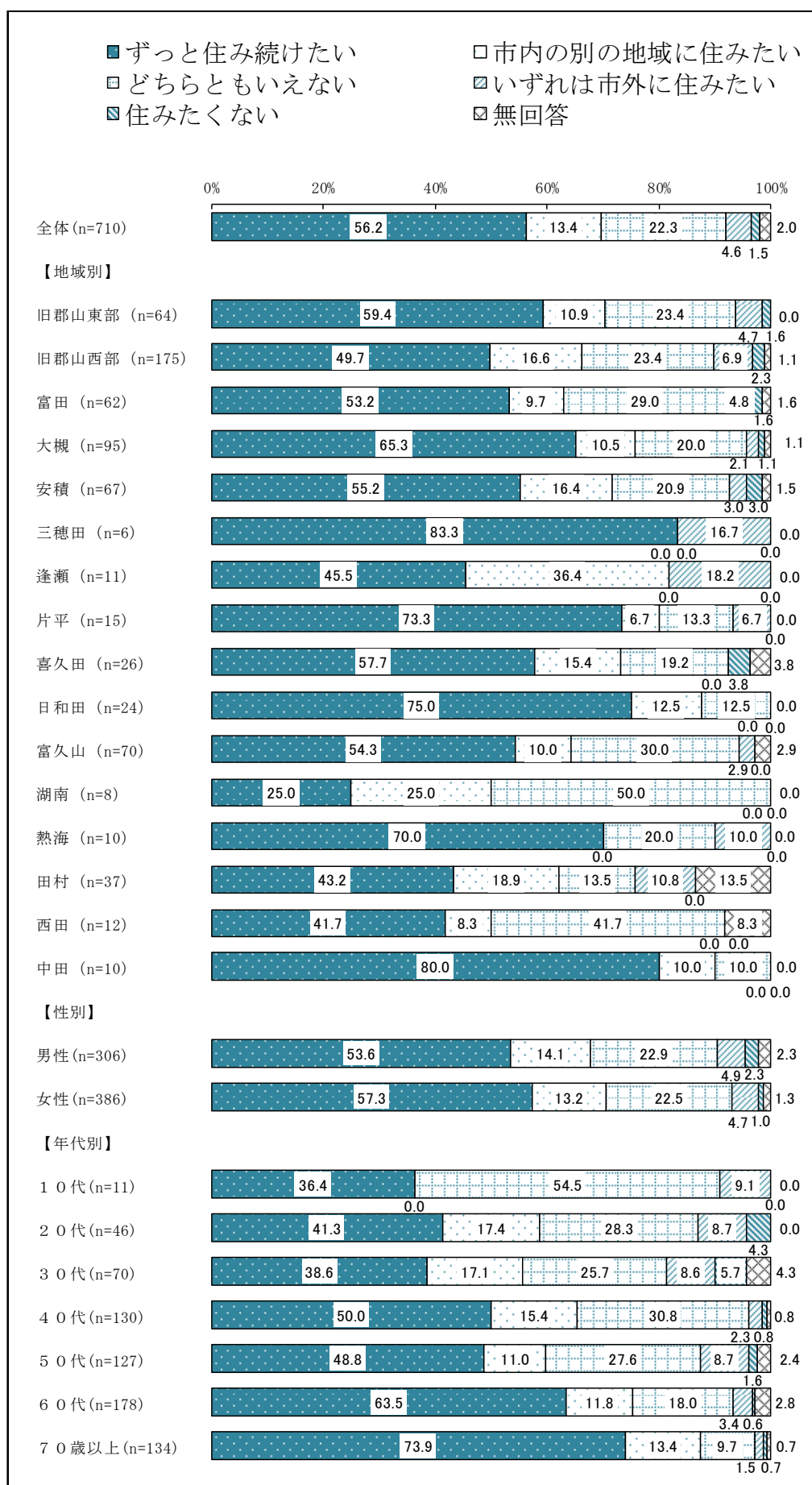
前項の〈住みやすさへの評価〉と同様に、『住み続けたい』計の割合は、女性（70.5%）の方が男性（67.7%）よりもやや高くなっています。

②年代別

こちらも前項の〈住みやすさへの評価〉とほぼ同様で、『住み続けたい』計の割合は、70歳以上（87.3%）で最も高く、次に60代（75.3%）と高い年代で割合が高くなっています。

一方、10代は「どちらともいえない」の割合が高く（54.5%）、『住み続けたい』計（36.4%）は低くなっています。次に、30代（55.7%）、20代（58.7%）が低く、この年代では「いずれは市外に住みたい」「住みたくない」の割合が他の世代に比較して多くなっています。

図 1-4 今後の居住意向（地域別／性別／年代別）



2. 郡山市まちづくり基本指針施策の満足度重要度

(1) まちづくりへの満足度結果一覧

まちづくり（取り組み）における 43 項目（施策）の満足度平均得点をランキング化しました。

表 2-1 43 項目（施策）の満足度ランキング

平均得点56.5点						
順位	前年度 順位	分野	項目	満足度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(2位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	67.8	➡	
2位	(4位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	医療	65.3	➡	
3位	(8位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	62.6	➡	
4位	(12位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	3R（資源の有効利用）	61.9	➡	
5位	(11位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	61.7	➡	
6位	(17位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	60.6	⬆	△
7位	(13位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防災	60.2	➡	
8位	(1位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	60.1	⬆	
9位	(23位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	58.6	⬆	△
10位	(20位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	子育て	58.5	⬆	△
11位	-	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	58.4	-	
12位	(40位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	58.3	⬆	△
13位	(22位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	57.8	➡	
14位	(36位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流	57.5	⬆	△
14位	(6位)	Ⅵ. 横断的取組	健康管理	57.5	⬆	
16位	(24位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	57.4	➡	
16位	(7位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	住環境	57.4	⬆	▼
18位	(29位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	57.3	⬆	△
19位	-	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	57.0	-	
20位	(5位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	56.9	⬆	▼
21位	(9位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	56.7	⬆	▼
22位	(26位)	Ⅵ. 横断的取組	風評の払しょく	56.6	➡	
23位	(34位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	56.4	⬆	△
24位	(42位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	地域産業	56.1	⬆	△
25位	(18位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	55.7	⬆	
25位	-	Ⅶ. 基盤的取組	セーフコミュニティ	55.7	-	
25位	(14位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	55.7	⬆	▼
28位	(28位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	55.2	➡	
29位	(37位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	55.1	➡	
30位	-	Ⅰ. 産業・仕事の未来	起業支援	55.0	-	
31位	(25位)	Ⅶ. 基盤的取組	連携中枢都市圏構想	54.9	⬆	
32位	(30位)	Ⅶ. 基盤的取組	行政経営	54.8	⬆	
33位	(39位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	54.3	➡	
33位	(15位)	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	54.3	⬆	▼
35位	(27位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	53.8	⬆	
36位	(35位)	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	53.5	⬆	
36位	(19位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	53.5	⬆	▼
38位	(43位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	雇用・就労	52.2	➡	
39位	(38位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	観光	52.1	⬆	
40位	(41位)	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	51.0	➡	
41位	-	Ⅵ. 横断的取組	除去土壌等の搬出	48.8	-	
42位	(32位)	Ⅱ. 交流・観光の未来	シティプロモーション	48.4	⬆	▼
43位	(33位)	Ⅰ. 産業・仕事の未来	農林業	46.8	⬆	▼

平均より高い

平均より低い

【よい】の回答者に 100 点、【まあまあ】に 80 点、【普通】に 60 点、【やや不満】に 40 点、【不満】に 20 点を与え、各項目の平均得点を算出した結果を掲載しました。(表 2-1 参照)

平均得点が高いほど、「満足」との評価が高い施策・事業です。

平均得点の算出式、算出例を以下に掲載しました。

※ 1 : 平均得点の算出式

(【よい】×100+【まあまあ】×80+【普通】×60
+【やや不満】×40+【不満】×20)÷無回答者を除いた n 数

※ 2 : 平均得点の算出例

例えば、「よい」110 人、「まあまあ」213 人、「普通」169 人、
「あまり」95 人、「まったく」46 人ですと、

$$\frac{110 \text{ 人} \times 100 \text{ 点} + 213 \text{ 人} \times 80 \text{ 点} + 169 \text{ 人} \times 60 \text{ 点} + 95 \text{ 人} \times 40 \text{ 点} + 46 \text{ 人} \times 20 \text{ 点}}{633 \text{ 人}}$$

≒67.8

※平均得点=67.8 点となります。

— 満足度の上位3つは、「音楽のまちづくり」「医療」「自然環境」です —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する満足度については、「音楽のまちづくり」「医療」「自然環境」が上位となっています。

「10年間の満足度上位3項目」において、「医療」は2017年以外、毎年度上位3項目に含まれ、また、「音楽のまちづくり」は「音楽都市こおりやま」を含めると2013年以降は毎年上位3項目に含まれており、継続して満足度の上位にある施策です。

「音楽のまちづくり」については、「音楽都市宣言」から10年経過し、市民の認知度が高いこと、また、「医療」については、人口に対する病床数や医師等が全国平均を上回っていることなどが、満足度につながっていると考えられます。

前年度調査に比べて大きく順位を上げたのは、「スポーツ・文化・芸術」「防犯・交通安全・消費者対策」「子育て」「産業創出・企業誘致」「都市間交流・国際交流」です。

これら項目に関連する本市の主な取り組みは、次のとおりです。

「スポーツ」では充実したスポーツ施設環境や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした市民参加型のイベントの実施、プロスポーツとの連携による事業展開を図り、「防犯・交通安全」では2018年2月にセーフコミュニティ認証を取得し、地域での安全・安心への取り組みを推進しています。

「子育て」については、保育料無料化・軽減事業（2014～）、子育て世代包括支援センター事業（ニコニコサポート）や子育て支援アプリケーション（ニコサポアプリ）の配信事業など市独自施策を展開し、2018年4月にはこどもを第一に考えるまちづくりを推進するため「郡山市子ども条例」を制定しました。

「産業創出・企業誘致」については、再生可能エネルギーや医療機器関連産業に関連した企業誘致や地元企業への支援など、研究開発機関や産業支援機関をはじめ、高等教育機関との様々な連携事業をすすめ成果をあげています。

「都市間交流・国際交流」では、国内の姉妹都市や連携都市との交流、また、国外では姉妹都市ブルメン市があるオランダ王国や特産物の鯉を通じてハンガリーとの交流、更には再生可能エネルギーや医療機器関連産業に関連し、エッセン市と連携しEU国際都市間協力プロジェクトに参加するなど国内外の都市との交流を深めました。

また、7分野の満足度を比較すると、最も満足度が高かった分野は、「誰もが地域で輝く未来」の58.0点、次いで「暮らしやすいまちの未来」の57.2点、「学び育む子どもたちの未来」の56.7点となっています。

表 2-2 7分野別の満足度ランキング

順位	分野	点数
1位	Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	58.0
2位	Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	57.2
3位	Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	56.7
4位	Ⅱ. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	56.5
5位	Ⅶ. 基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏)	55.1
6位	Ⅵ. 横断的取組 (復興・創生の更なる推進)	54.3
7位	Ⅰ. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	54.1

過去 10 年間の満足度上位 3 つは下表のとおりです。

表 2-3 10年間の満足度上位 3 項目

順位 年度	1 位	2 位	3 位
H30	音楽のまちづくり	医療	自然環境
H29	広聴広報	音楽都市こおりやま	除染
H28	広聴広報	音楽都市こおりやま	医療
H27	音楽都市こおりやま	生涯学習	医療
H26	音楽都市こおりやま	医療	生涯学習
H25	生涯学習	医療	音楽都市こおりやま
H24	医療体制	生活衛生体制	保健予防体制
H23	医療体制	生活衛生体制	ごみ対策
H22	生活環境	医療体制	ごみ対策
H21	生活環境	医療体制	ごみ対策

(2) これからの取り組み重要度結果一覧

まちづくり（取り組み）における 43 項目（施策）の重要度の平均割合（回答率）をランキング化しました。

表 2-4 43 項目（施策）の重要度ランキング

平均割合 11.1%

順位	前年度 順位	分野	項目	重要度	順位の変動	10位以上の 変動
1位	(6位)	I. 産業・仕事の未来	雇用・就労	34.8	➡	
2位	(2位)	III. 学び育む子どもたちの未来	子育て	32.4	➡	
3位	(1位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	高齢者福祉	28.9	➡	
4位	(3位)	III. 学び育む子どもたちの未来	学校教育	22.0	➡	
5位	(5位)	I. 産業・仕事の未来	産業創出・企業誘致	20.0	➡	
6位	(8位)	V. 暮らしやすいまちの未来	計画的な都市づくり	19.2	➡	
7位	(4位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	医療	18.0	➡	
8位	-	VI. 横断的取組	除去土壌等の搬出	17.5	-	
9位	(34位)	I. 産業・仕事の未来	地域産業	17.2	⬆	△
9位	(7位)	V. 暮らしやすいまちの未来	交通・道路	17.2	➡	
11位	(23位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防災	16.6	⬆	△
12位	(11位)	II. 交流・観光の未来	観光	14.5	➡	
13位	(9位)	V. 暮らしやすいまちの未来	防犯・交通安全・消費者対策	14.4	➡	
14位	(41位)	I. 産業・仕事の未来	特産品ブランド化	13.7	⬆	△
15位	(17位)	III. 学び育む子どもたちの未来	乳幼児教育・家庭教育	13.1	➡	
16位	(29位)	II. 交流・観光の未来	音楽のまちづくり	11.5	⬆	△
17位	(12位)	III. 学び育む子どもたちの未来	青少年健全育成	10.7	➡	
18位	(10位)	VI. 横断的取組	風評の払しょく	10.6	➡	
19位	(24位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	健康づくり	10.0	➡	
20位	(39位)	II. 交流・観光の未来	都市間交流・国際交流	9.9	⬆	△
21位	(12位)	I. 産業・仕事の未来	農林業	9.6	⬆	▼
21位	(21位)	VI. 横断的取組	健康管理	9.6	➡	
23位	(28位)	V. 暮らしやすいまちの未来	住環境	8.9	➡	
24位	(29位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	スポーツ・文化・芸術	8.7	➡	
25位	-	I. 産業・仕事の未来	起業支援	8.2	-	
26位	(18位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域福祉	7.6	➡	
27位	(38位)	II. 交流・観光の未来	歴史・文化遺産	7.2	⬆	△
28位	(27位)	V. 暮らしやすいまちの未来	自然環境	6.8	➡	
29位	(15位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	障がい者福祉	6.3	⬆	▼
30位	(35位)	II. 交流・観光の未来	シティプロモーション	6.2	➡	
31位	-	IV. 誰もが地域で輝く未来	地域コミュニティ	5.6	-	
32位	-	III. 学び育む子どもたちの未来	地域学習	5.2	-	
32位	(15位)	V. 暮らしやすいまちの未来	3R（資源の有効利用）	5.2	⬆	▼
34位	(26位)	VII. 基盤的取組	行政経営	4.5	➡	
35位	(33位)	VII. 基盤的取組	連携中枢都市圏構想	4.4	➡	
36位	(22位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	生涯学習	4.2	⬆	▼
36位	(37位)	V. 暮らしやすいまちの未来	環境活動	4.2	➡	
36位	(14位)	V. 暮らしやすいまちの未来	エネルギー	4.2	⬆	▼
39位	(31位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	市民協働	2.7	➡	
40位	-	VII. 基盤的取組	セーフコミュニティ	2.0	-	
41位	(42位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	広聴広報	1.7	➡	
42位	(31位)	IV. 誰もが地域で輝く未来	男女共同参画	0.7	⬆	▼
42位	(40位)	V. 暮らしやすいまちの未来	ユニバーサルデザイン	0.7	➡	

平均より高い

平均より低い

— 重要度の上位3つは、「雇用・就労」「子育て」「高齢者福祉」です —

【全体結果】

現在のまちづくりに対する重要度については、「雇用・就労」「子育て」「高齢者福祉」が上位となっています。

「雇用・就労」については、市民生活に直結する項目であるとともに、国の「働き方改革」や社会的構造変化に伴う労働力不足への対応など、雇用・就労を取り巻く環境変化などから重要度が高くなったと考えられます。

「10年間の重要度上位3項目」において、「子育て」は2014年から、「高齢者福祉」は2013年から毎年度上位3項目に含まれており、継続して重要度の高い施策です。

前年度調査に比べて大きく順位を上げたのは、「地域産業」「防災」「特産品ブランド化」「音楽のまちづくり」です。

「地域産業」については、「雇用・就労」重要度の高まりとともに、雇用と密接に関わる地域産業の活性化の重要性が高まっています。

「防災」は西日本豪雨や大阪北部地震等の大規模な自然災害の多発による防災意識の高まりから、また「特産品ブランド化」については、更なる郡山産品の販路拡大による風評の払しょく、また、日本遺産「一本の水路」ブランド認証の活用など、ブランディングにより地域の魅力を最大限に引き出すことが求められていると考えられます。

また、7分野の重要度を比較すると、満足度においては最も低い分野の「産業・仕事の未来」は最も重要度が高い分野で17.2%となっており、重点的に取り組むべき分野といえます。

次いで「学び育む子どもたちの未来」の16.7%、「横断的取組」の12.5%となっています。

表 2－5 7分野別の重要度ランキング

順位	分野	回答率
1位	I. 産業・仕事の未来 (商業・工業・雇用・農林業分野)	17.2
2位	III. 学び育む子どもたちの未来 (子育て・教育・地域学習分野)	16.7
3位	VI. 横断的取組 (復興・創生の更なる推進)	12.5
4位	II. 交流・観光の未来 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	9.9
5位	V. 暮らしやすいまちの未来 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	9.7
6位	IV. 誰もが地域で輝く未来 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	8.6
7位	VII. 基盤的取組 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏)	3.6

参考までに、過去 10 年間の重要度上位 3 つは下表のとおりです。

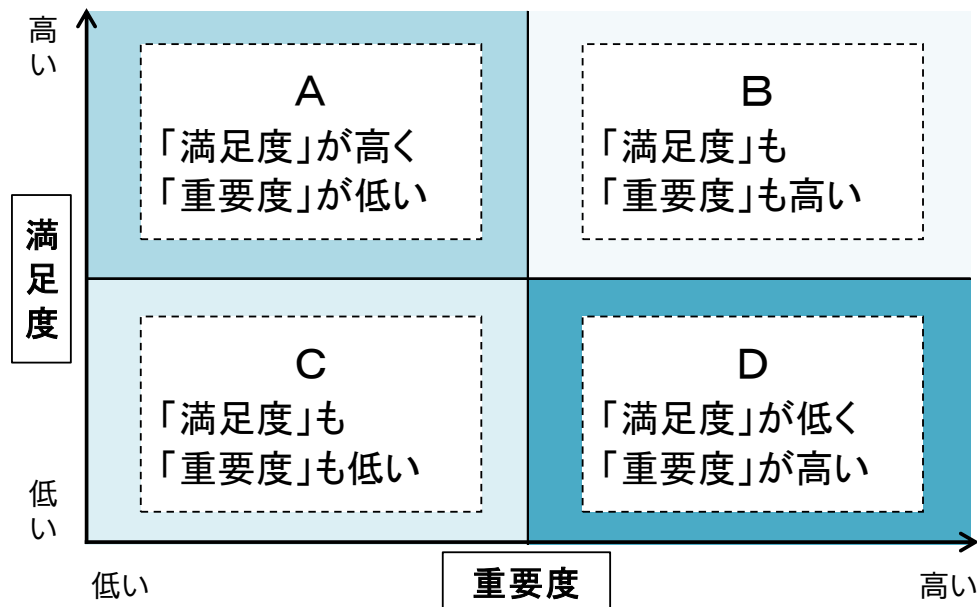
表 2－6 10年間の重要度上位3項目

順位 年度	1 位	2 位	3 位
H30	雇用・就労	子育て	高齢者福祉
H29	高齢者福祉	子育て	学校教育
H28	高齢者福祉	学校教育	子育て
H27	高齢者・障がい者福祉	学校教育	子育て
H26	高齢者・障がい者福祉	子育て	学校教育
H25	除染	高齢者・障がい者福祉	学校教育
H24	医療体制	生活環境	保健予防体制
H23	生活環境	医療体制	ごみ対策
H22	医療体制	生活環境	ごみ対策
H21	医療体制	生活環境	ごみ対策

（３）施策の優先度《満足度と重要度の関係》

まちづくり（取り組み）における 43 項目（施策）の優先度を整理するため、「満足度」を縦軸、「重要度」を横軸にとり、各項目の「満足度」「重要度」の結果を散布図として示しました。満足度平均得点の算出方法につきましては、前出 24 頁を参照ください。

なお、「満足度」「重要度」の関係を表す領域線は、それぞれの平均値となります。



A：維持領域

重要度は低いが満足度が高い取り組みは、現状を維持していく項目（施策）です。

B：重要維持領域

重要度が高く満足度も高いため、引き続き重点的に維持していく項目（施策）です。

C：要検討領域

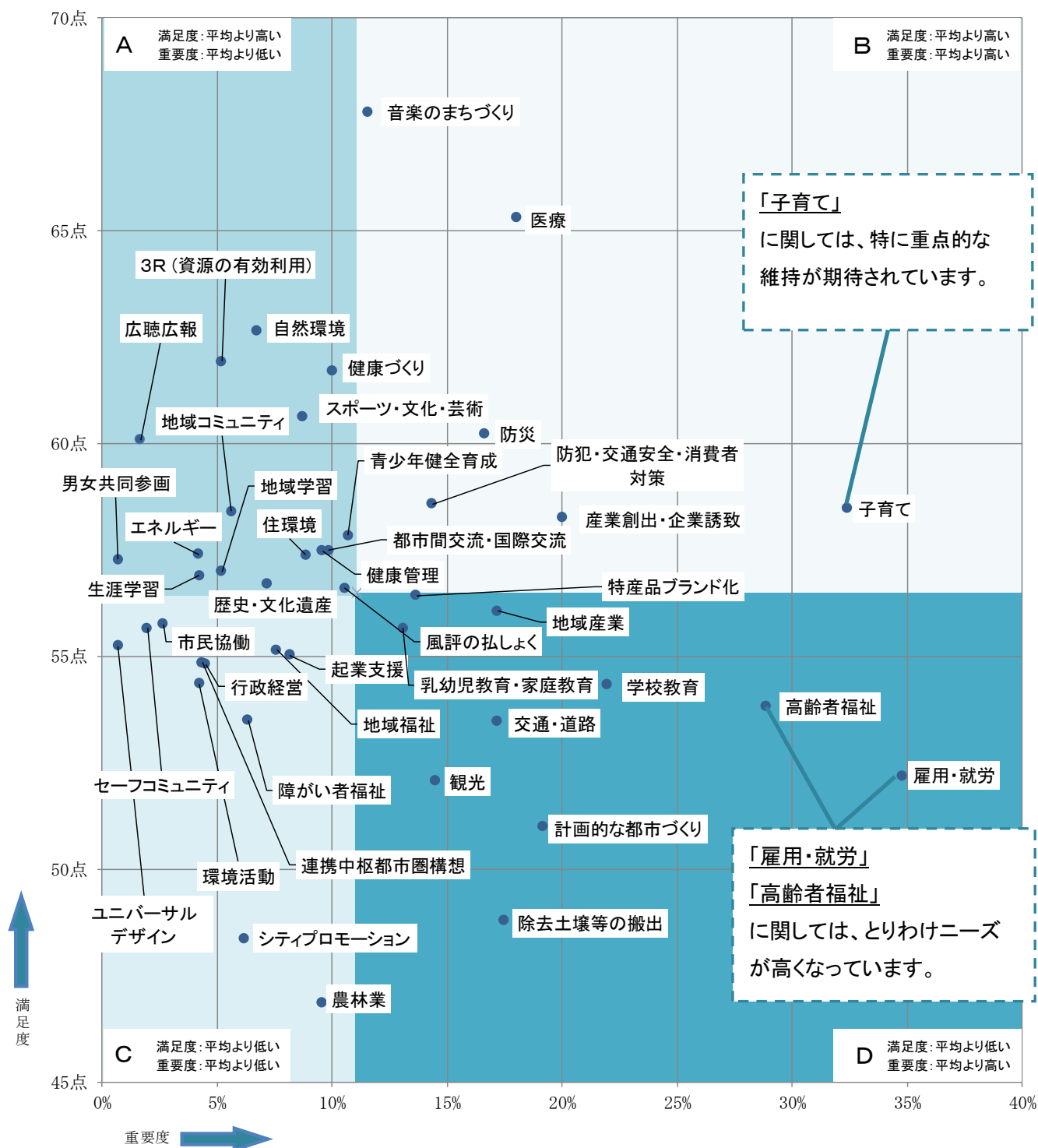
重要度も満足度も低い取り組みは、市民ニーズを再認識し、必要があれば大きく改善する必要がある項目（施策）です。

D：重要取組領域

重要度が高いが満足度が低いため、重点的に取り組みを進める必要がある項目（施策）です。

※上記のそれぞれの領域に該当した項目（施策）の満足度や重要度の高低については、全体の平均値と比較した相対的判断となっています。

図 2-1 施策の優先度（満足度と重要度の関係散布図）



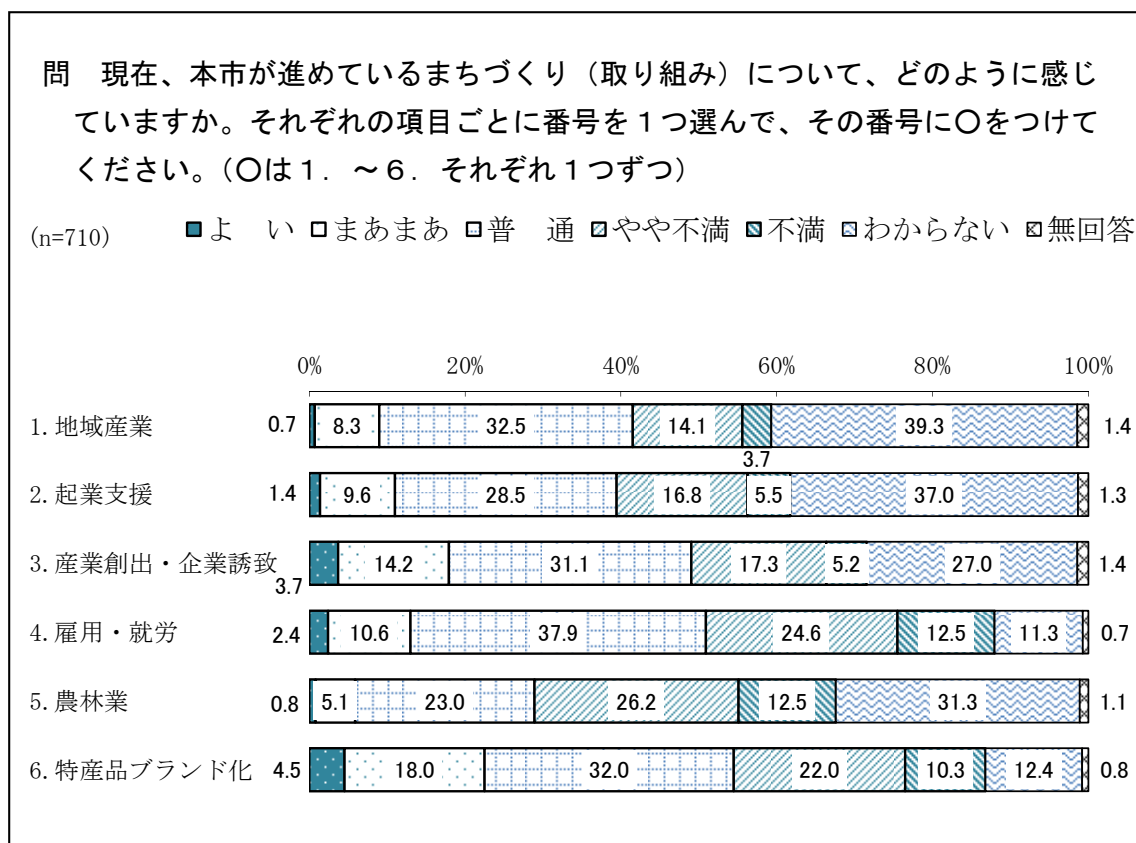
—— 「雇用・就労」「高齢者福祉」に関して

優先的な施策の改善が求められている ——

現在の満足度が低く、今後の重要性が高い領域「D」にある施策は市民ニーズが高いと考えられます。この領域は市民生活に密接な関係のある施策が多く、とりわけ「雇用・就労」「高齢者福祉」は市民ニーズの高いポイントとなっています。

(4) 分野別属性別満足度結果

①産業・仕事の未来（商業・工業・雇用・農林業分野）への満足度



—— 産業・仕事の未来において「満足」と思う人が最も多いのは

『特産品ブランド化』 ——

【全体結果】

『産業・仕事の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「まあまあ」の合計）」の割合が最も高いのは『6. 特産品ブランド化』（22.5%）でした。以下、『3. 産業創出・企業誘致』（17.9%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「やや不満」の合計）」の割合が高いのは『5. 農林業』（38.7%）、『4. 雇用・就労』（37.1%）、『6. 特産品ブランド化』（32.3%）がそれぞれ3割台となっており、『6. 特産品ブランド化』については評価が分かれる結果となっております。

市特産品の「鯉」や「あさか舞」、6次産業による郡山産ワイン誕生を目指すプロジェクトなど、風評の払しょくに向けた取り組みが評価される一方、「43項目（施策）の重要度ランキング」（表2-4）で大きく順位を上げるなど、更なる施策の推進が求められています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図2-2 参照）

平均得点をみると、『3. 産業創出・企業誘致』が58.3点で最も高く、一方で、最も低かったのは『5. 農林業』（46.8点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表2-7 参照）

図 2－2 産業・仕事の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

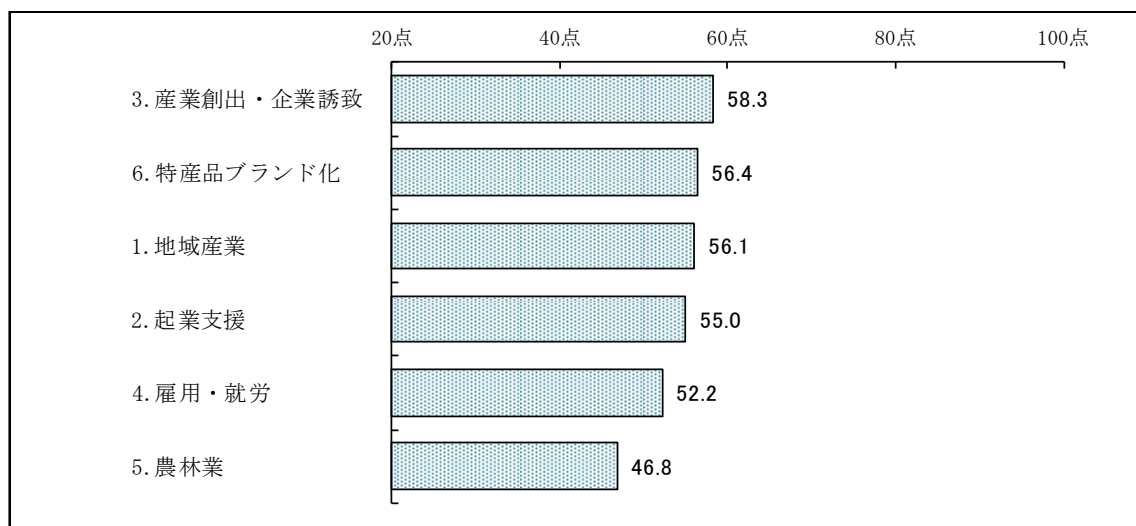


表 2－7 産業・仕事の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	産業創出・ 企業誘致 (56.9点)	特産品 ブランド化 (61.1点)
2位	地域産業 (55.5点)	産業創出・ 企業誘致 (59.8点)
3位	起業支援 (55.2点)	地域産業 (56.9点)

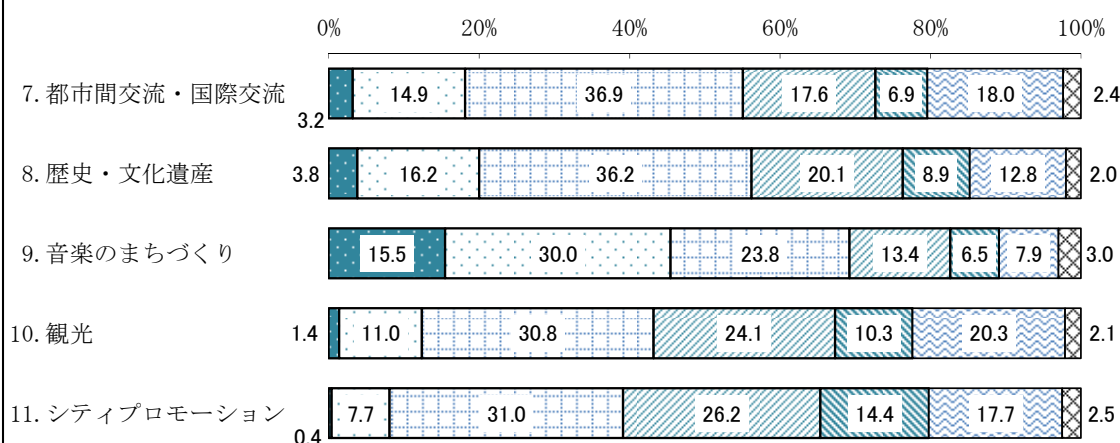
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	特産品 ブランド化 (68.9点)	特産品 ブランド化 (62.3点)	特産品 ブランド化 (57.6点)	産業創出・ 企業誘致 (60.4点)	地域産業 (56.3点)	産業創出・ 企業誘致 (56.7点)	産業創出・ 企業誘致 (61.5点)
2位	産業創出・ 企業誘致 (68.6点)	地域産業 (60.7点)	産業創出・ 企業誘致 (57.0点)	地域産業 (57.6点)	産業創出・ 企業誘致 (54.9点)	特産品 ブランド化 (54.9点)	起業支援 (60.5点)
3位	地域産業 (64.0点)	産業創出・ 企業誘致 (60.0点)	地域産業 (53.3点)	特産品 ブランド化 (56.6点)	特産品 ブランド化 (53.9点)	地域産業 (52.8点)	地域産業 (58.6点)

②交流・観光の未来（交流・文化・観光・シティプロモーション分野） への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。（○は7. ～11. それぞれ1つずつ）

(n=710)

■よい □まあまあ □普通 □やや不満 □不満 □わからない □無回答



—— 交流・観光の未来において「満足」と思う人が最も多いのは

『音楽のまちづくり』 ——

【全体結果】

『交流・観光の未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「まあまあ」の合計）」の割合が最も高いのは『9. 音楽のまちづくり』（45.5%）でした。以下、『8. 歴史・文化遺産』（20.0%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「やや不満」の合計）」の割合が最も高いのは『11. シティプロモーション』（40.6%）となっています。

性別、年代別において、10代をのぞいて、全ての種別で「音楽のまちづくり」が1位となっております。「音楽都市宣言」から10年経過し、学校音楽の全国大会での活躍により市民の認知度は高く、更に、様々なコンサートの開催、東京藝術大学との連携(2016～)事業など多様な取組により市民の満足の割合が高いと考えられます。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図2-3 参照）

平均得点をみると、『9. 音楽のまちづくり』が67.8点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『11. シティプロモーション』（48.4点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを下記に掲載しました。（表2-8 参照）

図 2－3 交流・観光の未来への満足度＜平均得点＞（全体）

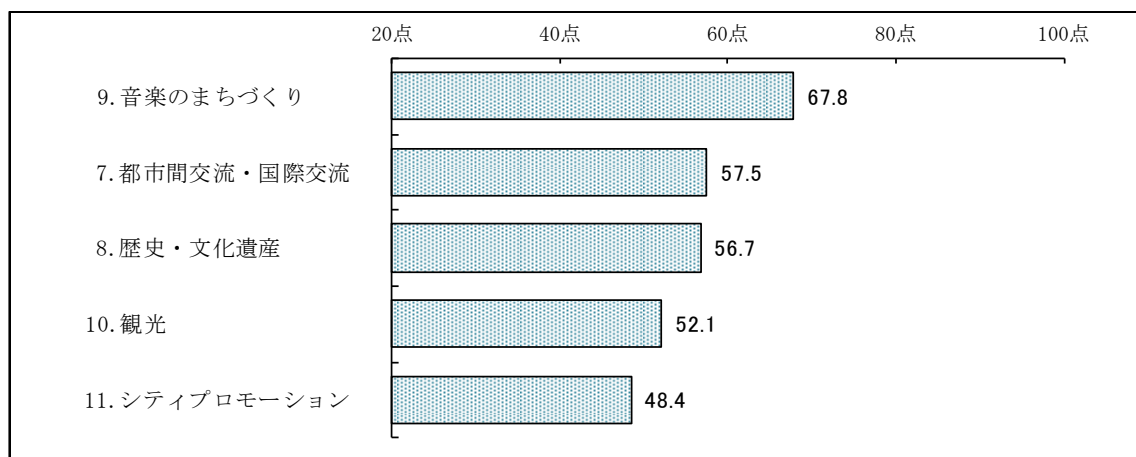


表 2－8 交流・観光の未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

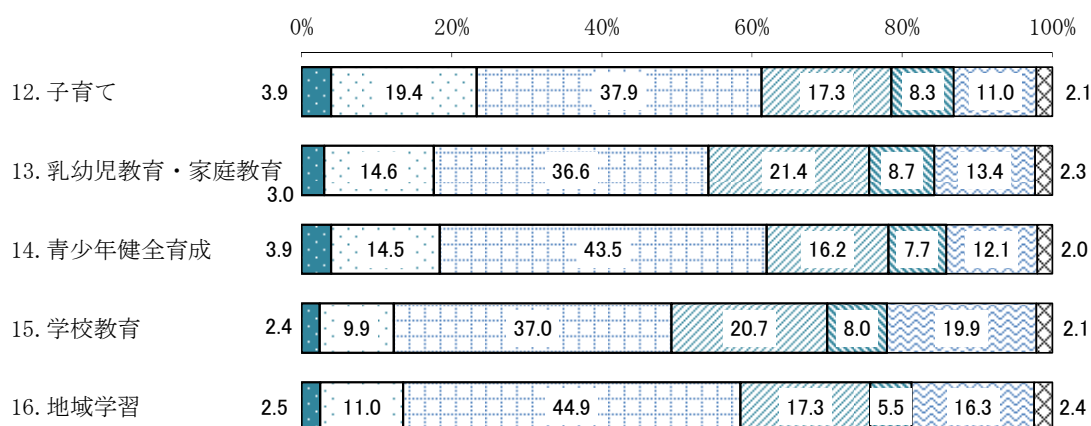
	男 性	女 性
1位	音楽の まちづくり (65.0点)	音楽の まちづくり (69.8点)
2位	都市間交流・ 国際交流 (55.0点)	都市間交流・ 国際交流 (59.5点)
3位	歴史・ 文化遺産 (53.7点)	歴史・ 文化遺産 (59.0点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	都市間交流・ 国際交流 (70.0点)	音楽の まちづくり (70.7点)	音楽の まちづくり (64.1点)	音楽の まちづくり (68.3点)	音楽の まちづくり (64.2点)	音楽の まちづくり (67.2点)	音楽の まちづくり (72.6点)
2位	歴史・ 文化遺産 (70.0点)	歴史・ 文化遺産 (60.5点)	都市間交流・ 国際交流 (54.3点)	歴史・ 文化遺産 (58.7点)	都市間交流・ 国際交流 (55.4点)	都市間交流・ 国際交流 (55.2点)	都市間交流・ 国際交流 (62.2点)
3位	音楽の まちづくり (65.5点)	都市間交流・ 国際交流 (59.4点)	歴史・ 文化遺産 (53.2点)	都市間交流・ 国際交流 (57.5点)	歴史・ 文化遺産 (54.0点)	歴史・ 文化遺産 (53.6点)	歴史・ 文化遺産 (60.4点)

③学び育む子どもたちの未来（子育て・教育・地域学習分野）への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。（○は12. ～16. それぞれ1つずつ）

(n=710) ■よい □まあまあ □普通 □やや不満 ■不満 □わからない □無回答



—— 学び育む子どもたちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『子育て』 ——

【全体結果】

『学び育む子どもたちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「まあまあ」の合計）」の割合が最も高いのは『12. 子育て』（23.3%）でした。以下、『14. 青少年健全育成』（18.4%）と続き、上位を構成しています。特に『12. 子育て』に関しては、安心して生み育てる環境において、子育てしやすい環境づくりに努めるなど、今後特に重点的な維持が期待されています。

一方で、「不満（「不満」と「やや不満」の合計）」の割合が最も高いのは『13. 乳幼児教育・家庭教育』（30.1%）となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図 2-4 参照）

平均得点をみると、『12. 子育て』が 58.5 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『15. 学校教育』（54.3 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを下記に掲載しました。（表 2-9 参照）

図 2-4 学び育む子どもたちの未来への満足度＜平均得点＞（全体）

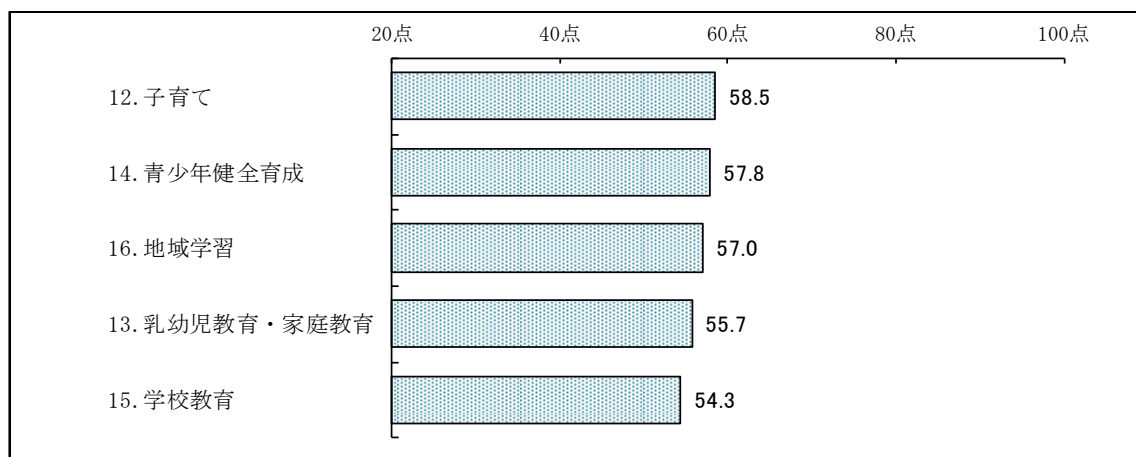


表 2-9 学び育む子どもたちの未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	子育て (56.9点)	青少年 健全育成 (59.9点)
2位	地域学習 (55.4点)	子育て (59.6点)
3位	青少年 健全育成 (55.4点)	地域学習 (58.2点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	子育て (74.0点)	地域学習 (61.1点)	子育て (59.0点)	子育て (61.6点)	子育て (56.0点) 青少年 健全育成 (56.0点)	青少年 健全育成 (56.9点)	青少年 健全育成 (59.8点)
2位	地域学習 (70.9点)	子育て (58.5点)	青少年 健全育成 (54.4点)	青少年 健全育成 (59.8点)		子育て (56.0点)	子育て (59.7点)
3位	青少年 健全育成 (69.1点)	青少年 健全育成 (57.8点)	学校教育 (54.3点)	地域学習 (57.5点)	地域学習 (55.2点)	地域学習 (55.9点)	乳幼児教育・ 家庭教育 (58.9点)

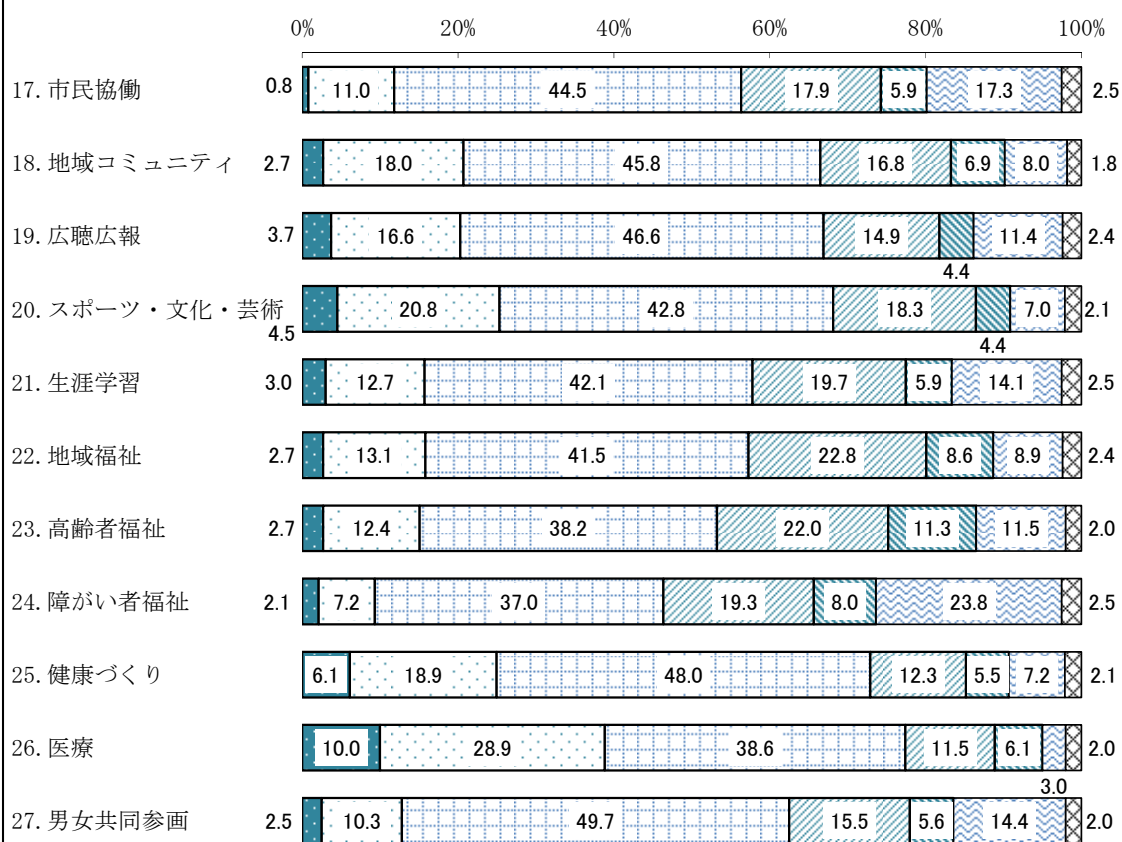
④誰もが地域で輝く未来

（市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野）への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。（○は17. ～27. それぞれ1つずつ）

(n=710)

■よい □まあまあ □普通 □やや不満 □不満 □わからない □無回答



—— 誰もが地域で輝く未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『医療』 ——

【全体結果】

『誰もが地域で輝く未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「まあまあ」の合計）」の割合が最も高いのは『26. 医療』（38.9%）でした。以下、『20. スポーツ・文化・芸術』（25.3%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「やや不満」の合計）」の割合が高いのは『23. 高齢者福祉』（33.3%）、『22. 地域福祉』（31.4%）がそれぞれ3割台となっています。

各項目の平均得点を算出した結果を下記に掲載しました。（図 2-5 参照）

平均得点をみると、『26. 医療』が 65.3 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『24. 障がい者福祉』（53.5 点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました。（表 2-10 参照）中でも『26. 医療』に関しては、性別、年代別平均得点とも 1 位で、人口 10 万人に対する、郡山市の病床数と医師・歯科医師がそれぞれ全国平均を大きく上回っており（参考「厚生労働省統計調査 平成 28 年 10 月 1 日現在」）、必要なときに安心かつ適切な医療を受けられる体制の充実への認識が高いと思われます。

図 2-5 誰もが地域で輝く未来への満足度＜平均得点＞（全体）

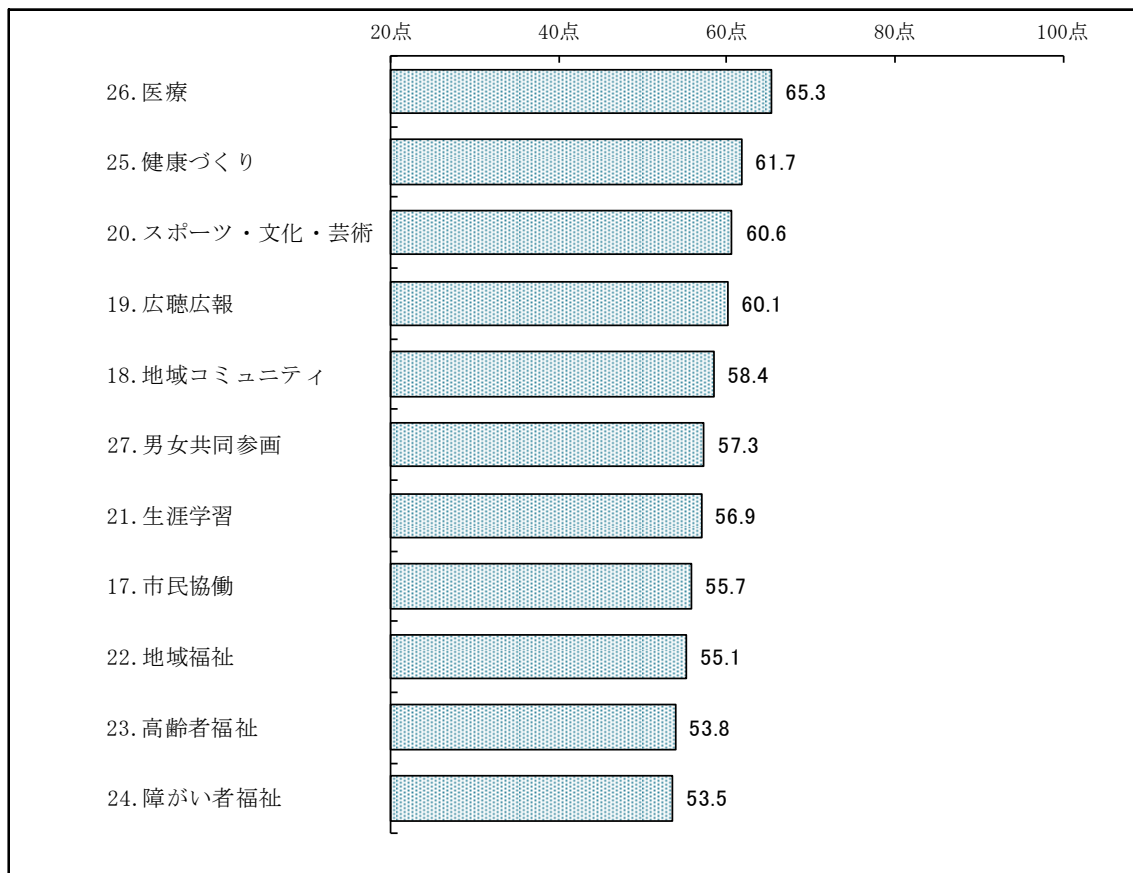


表 2－10 誰もが地域で輝く未来への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男 性	女 性
1位	医療 (65.0点)	医療 (65.4点)
2位	健康づくり (59.4点)	健康づくり (63.5点)
3位	スポーツ・ 文化・芸術 (58.7点)	スポーツ・ 文化・芸術 (62.1点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	医療 (78.2点)	医療 (67.3点)	医療 (62.6点)	医療 (65.6点)	医療 (62.5点)	医療 (63.5点)	医療 (69.5点)
2位	高齢者福祉 (73.3点)	スポーツ・ 文化・芸術 (67.1点)	広聴広報 (62.1点)	健康づくり (62.5点)	健康づくり (56.9点)	健康づくり (61.2点)	健康づくり (66.9点)
3位	地域福祉 (72.7点)	広聴広報 (66.8点)	スポーツ・ 文化・芸術 (58.7点)	スポーツ・ 文化・芸術 (61.1点)	男女共同参画 (55.5点)	広聴広報 (59.2点)	スポーツ・ 文化・芸術 (65.8点)

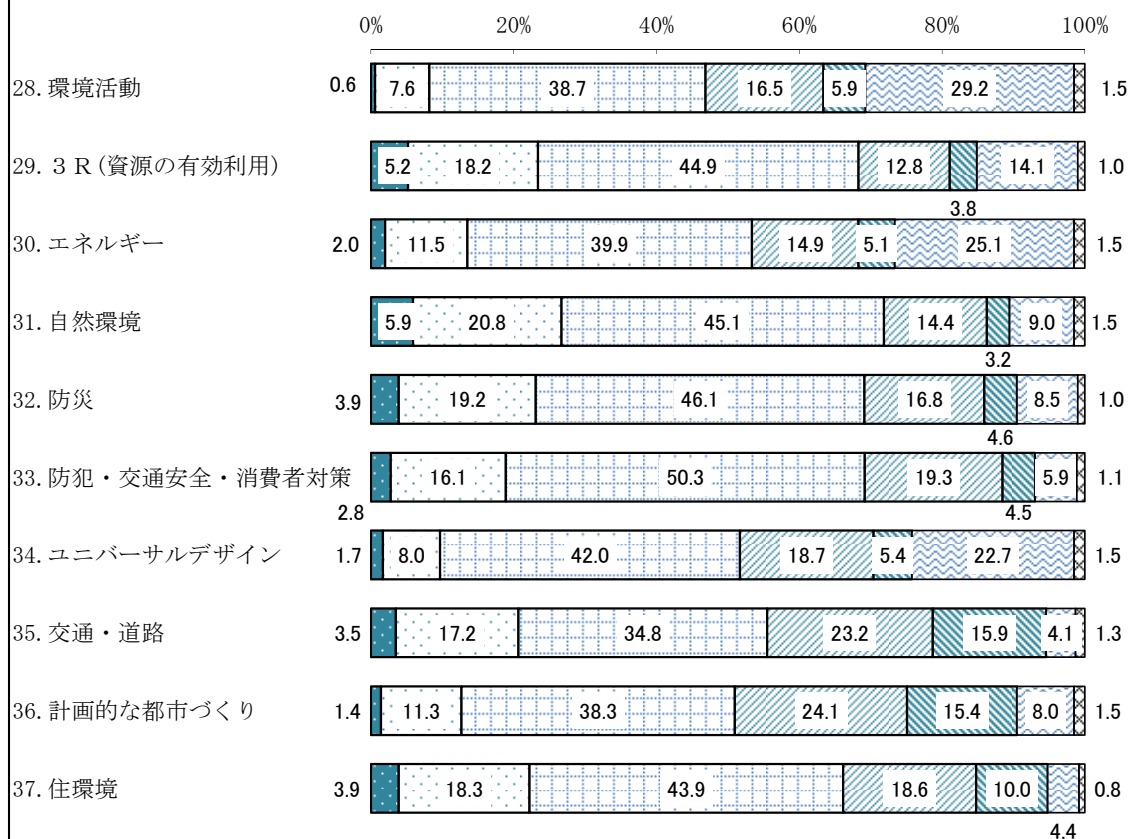
⑤暮らしやすいまちの未来

(環境・防災・市民安全・生活インフラ分野) への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。（○は28. ～37. それぞれ1つずつ）

(n=710)

■よい □まあまあ □普通 □やや不満 □不満 □わからない □無回答



—— 暮らしやすいまちの未来において

「満足」と思う人が最も多いのは『自然環境』

——

【全体結果】

『暮らしやすいまちの未来』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「まあまあ」の合計）」の割合が最も高いのは『31. 自然環境』（26.7%）でした。以下、『29. 3 R（資源の有効利用）』（23.4%）と続き、上位を構成しています。

一方で、「不満（「不満」と「やや不満」の合計）」の割合が高いのは『36. 計画的な都市づくり』（39.5%）、『35. 交通・道路』（39.1%）がそれぞれ3割台となっています。

また、「普通」の割合が過半数を占める項目は、『33. 防犯・交通安全・消費者対策』（50.3%）でした。

各項目の平均得点を算出した結果を下記に掲載しました。（図 2-6 参照）

平均得点をみると、『31. 自然環境』が 62.6 点で最も高くなっています。

一方で、最も低かったのは『36. 計画的な都市づくり』（51.0 点）でした。

『32. 防災』『33. 防犯・交通安全・消費者対策』に関しては、重要度・満足度が平均得点より高く、今後も防災体制の整備やセーフコミュニティ活動の更なる推進が求められていると考えられます。

なお、性別、年代別平均得点の上位 3 つを次頁に掲載しました。（表 2-11 参照）

図 2-6 暮らしやすいまちの未来への満足度＜平均得点＞（全体）

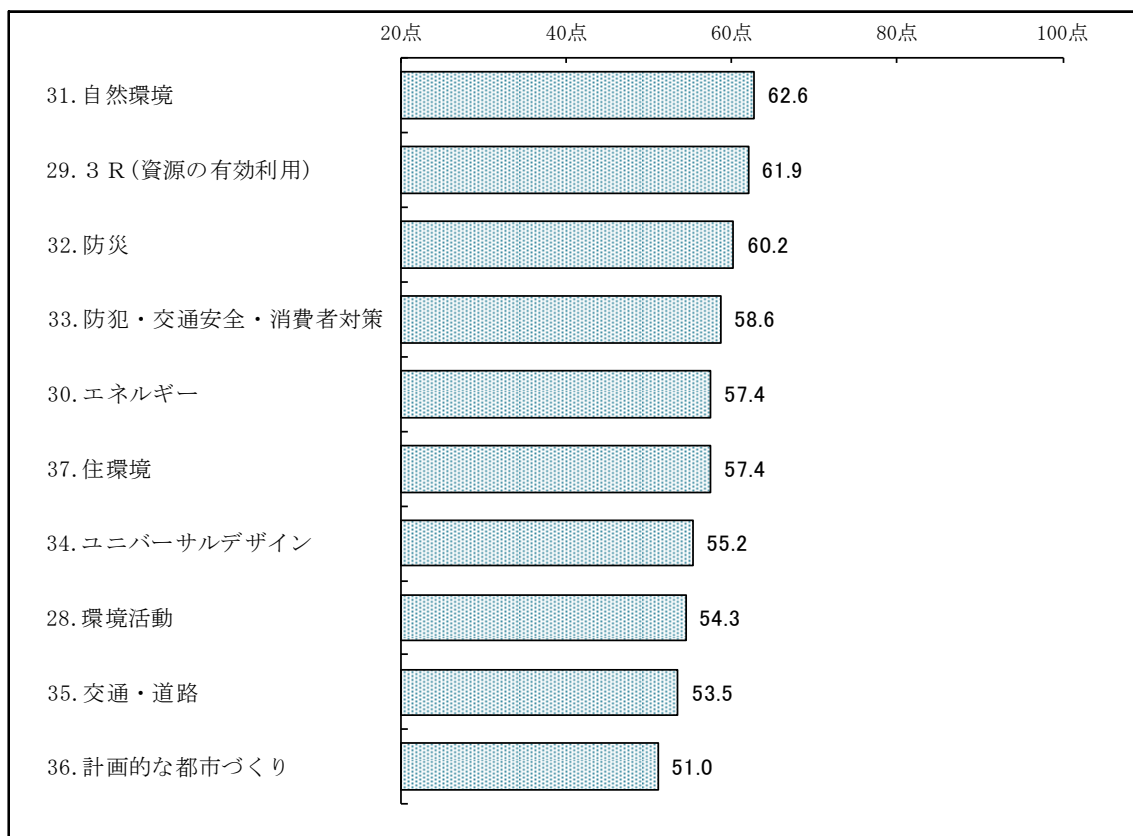


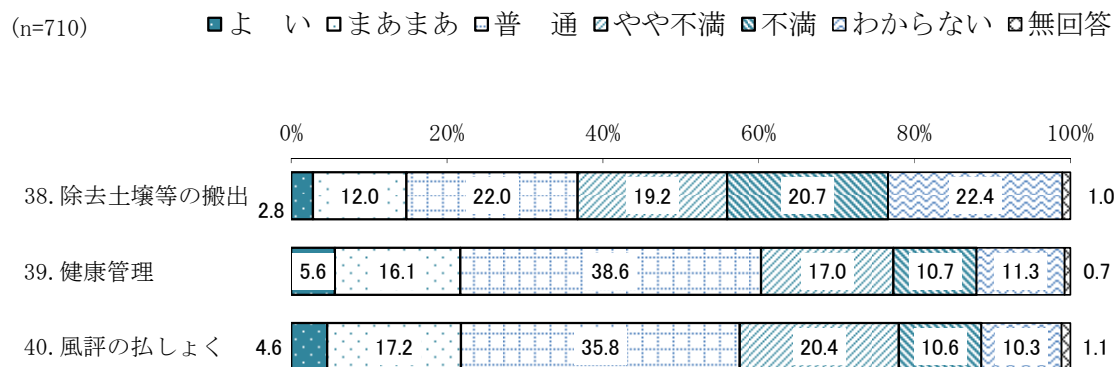
表 2－1 1 暮らしやすいまちの未来の満足度＜性別、年代別平均得点の上位 3 つ＞

	男 性	女 性
1位	3R（資源の有効利用） （62.3点）	自然環境 （63.2点）
2位	自然環境 （62.2点）	3R（資源の有効利用） （61.6点）
3位	防災 （60.4点）	防災 （59.9点）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	住環境 （72.7点）	自然環境 （69.8点）	エネルギー （60.8点）	自然環境 （64.6点）	自然環境 （61.5点）	3R（資源の有効利用） （62.4点）	3R（資源の有効利用） （67.8点）
2位	自然環境 （72.0点）	防災 （66.5点）	3R（資源の有効利用） （59.3点）	3R（資源の有効利用） （61.9点）	防災 （58.1点）	自然環境 （59.5点）	自然環境 （65.0点）
3位	エネルギー （68.0点）	エネルギー （64.2点）	自然環境 （59.1点）	防災 （58.9点）	防犯・交通安全 ・消費者対策 （57.6点）	防災 （59.2点）	防災 （64.9点）

⑥横断的取組（復興・創生の更なる推進）への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。（○は38.～40.それぞれ1つずつ）



—— 横断的取組において「満足」と思う人が最も多いのは

『風評の払しょく』 ——

【全体結果】

『横断的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「まあまあ」の合計）」の割合が最も高いのは『40. 風評の払しょく』（21.8%）です。東日本大震災から約8年経過し風評の払しょくに関しては、郡山製品の安全性、販路の拡大及び観光誘客等に繋がってきていると考えられます。

一方で、「不満（「不満」と「やや不満」の合計）」の割合が最も高いのは『38. 除去土壌等の搬出』（39.9%）となっています。除染により発生した除去土壌等の早期搬出が求められていると考えられます。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図2-7 参照）

平均得点をみると、『39. 健康管理』が57.5点で最も高くなっています。内部被ばく検査や食品の安全確保のための放射能検査、心や体のケアに関する体制などが充実し、健康管理が図られていると考えられます。

一方で、最も低かったのは『38. 除去土壌等の搬出』（48.8点）でした。

なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表2-12 参照）

図 2－7 横断的取組への満足度＜平均得点＞（全体）

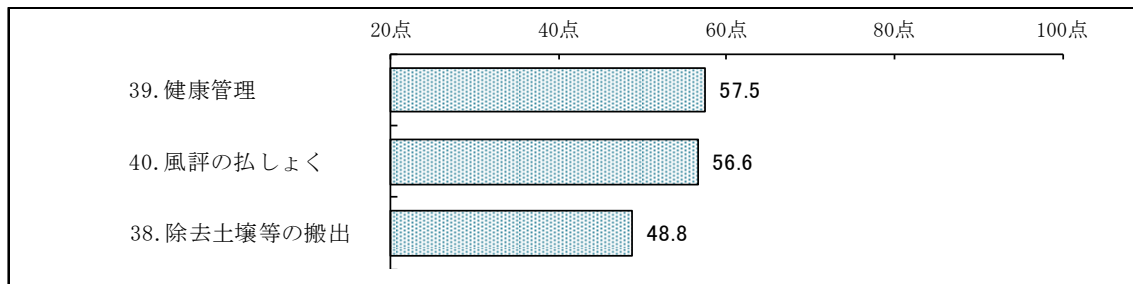


表 2－12 横断的取組への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

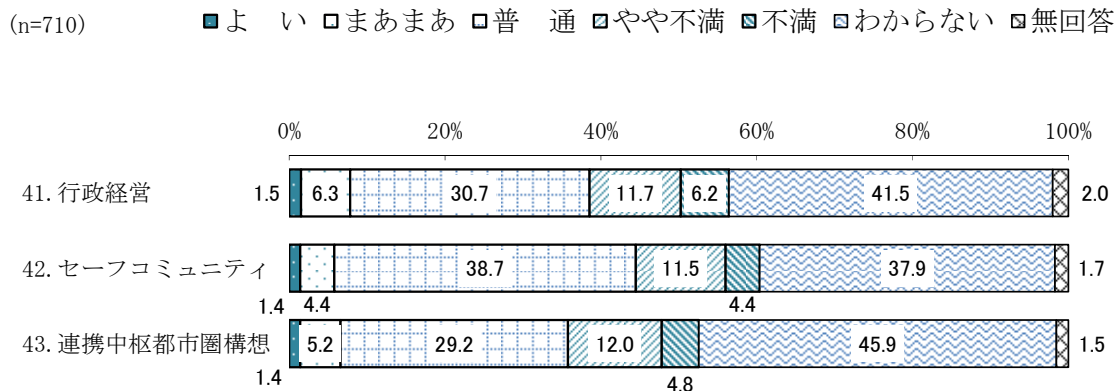
	男 性	女 性
1位	健康管理 (56.7点)	風評の払しょく (58.9点)
2位	風評の払しょく (54.0点)	健康管理 (58.4点)
3位	除去土壌等 の搬出 (50.0点)	除去土壌等 の搬出 (48.2点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	健康管理 (67.3点)	健康管理 (66.3点)	風評の払しょく (55.8点)	健康管理 (61.0点)	風評の払しょく (55.5点)	健康管理 (54.3点)	健康管理 (59.5点)
2位	風評の払しょく (66.0点)	風評の払しょく (60.9点)	健康管理 (55.6点)	風評の払しょく (60.3点)	健康管理 (53.6点)	風評の払しょく (52.4点)	風評の払しょく (57.9点)
3位	除去土壌等 の搬出 (57.5点)	除去土壌等 の搬出 (54.6点)	除去土壌等 の搬出 (47.8点)	除去土壌等 の搬出 (54.5点)	除去土壌等 の搬出 (44.4点)	除去土壌等 の搬出 (48.5点)	除去土壌等 の搬出 (46.1点)

⑦基盤的取組

（行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏）への満足度

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、どのように感じていますか。それぞれの項目ごとに番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。（○は41.～43.それぞれ1つずつ）



—— 基盤的取組において「満足」と思う人が最も多いのは『行政経営』 ——

【全体結果】

『基盤的取組』における、各項目に対する満足・不満をみると、「満足（「よい」と「まあまあ」の合計）」の割合が最も高いのは『41. 行政経営』（7.8%）です。

一方で、「不満（「不満」と「やや不満」の合計）」の割合が最も高いのも『41. 行政経営』（17.9%）となっています。

連携中枢都市圏構想については、2018年度中の「こおりやま広域圏」形成に向け、関係14市町村とともに手続きを進めているところであり、「わからない」が45.9%と多くなっていることから、今後、一層の周知に取り組む必要があります。

各項目の平均得点を算出した結果を次頁に掲載しました。（図2-8参照）

平均得点をみると、『42. セーフコミュニティ』が55.7点で最も高くなっています。一方で、最も低かったのは『41. 行政経営』（54.8点）でした。なお、性別、年代別平均得点の上位3つを次頁に掲載しました。（表2-13参照）

図 2－8 基盤的取組への満足度＜平均得点＞（全体）

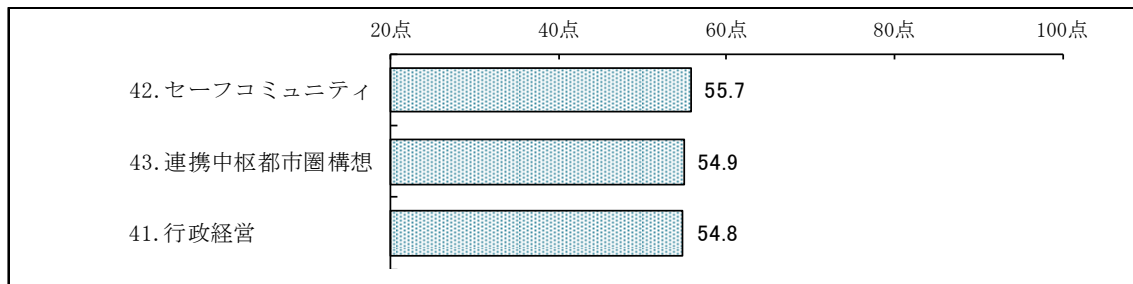


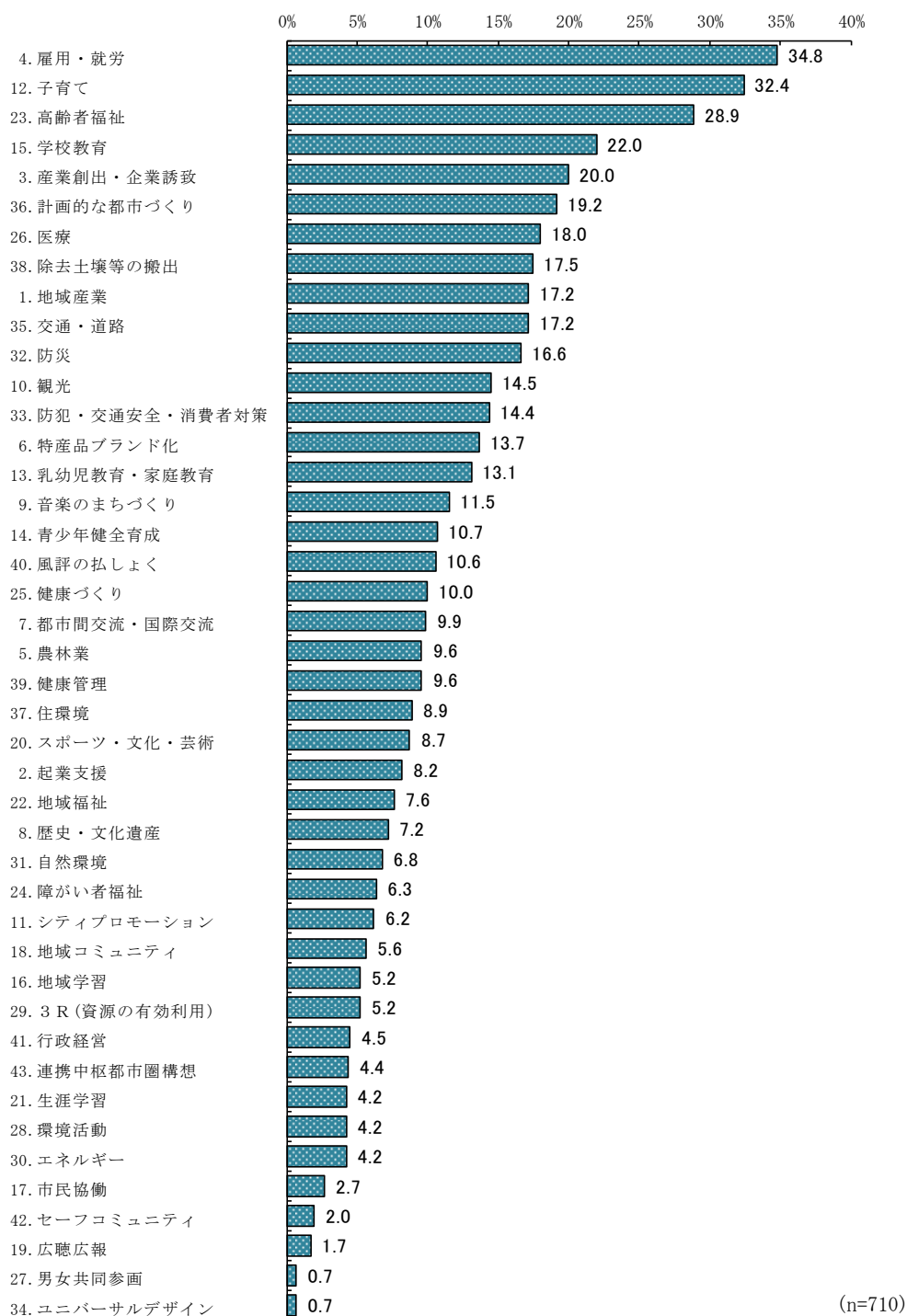
表 2－13 基盤的取組への満足度＜性別、年代別平均得点の上位3つ＞

	男 性	女 性
1位	セーフ コミュニティ (54.9点)	セーフ コミュニティ (56.1点)
2位	連携中枢 都市圏構想 (54.4点)	行政経営 (55.3点)
3位	行政経営 (54.2点)	連携中枢 都市圏構想 (55.0点)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	行政経営 (60.0点)	セーフ コミュニティ (57.0点)	連携中枢 都市圏構想 (56.1点)	行政経営 (58.7点)	セーフ コミュニティ (54.6点)	セーフ コミュニティ (55.0点)	連携中枢 都市圏構想 (56.8点)
2位	セーフ コミュニティ (60.0点)	行政経営 (56.1点)	行政経営 (55.7点)	セーフ コミュニティ (56.9点)	連携中枢 都市圏構想 (54.5点)	連携中枢 都市圏構想 (51.7点)	行政経営 (56.6点)
3位	連携中枢 都市圏構想 (60.0点)	連携中枢 都市圏構想 (55.9点)	セーフ コミュニティ (54.7点)	連携中枢 都市圏構想 (55.8点)	行政経営 (52.8点)	行政経営 (50.9点)	セーフ コミュニティ (55.4点)

(5) 分野別属性別重要度結果

問 現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、特に重要と思われるものの番号を5つ選び、その番号に○印をつけてください。（○は5つ）



最も重要視されている施策・事業は「雇用・就労」

【全体結果】

「雇用・就労」（34.8％）の割合が最も高くなっています。以下、「子育て」（32.4％）、「高齢者福祉」（28.9％）、「学校教育」（22.0％）、「産業創出・企業誘致」（20.0％）、「計画的な都市づくり」（19.2％）の順で続いています。

なお、性別、年代別の上位5つを下記に載しました。（表 2-14 参照）

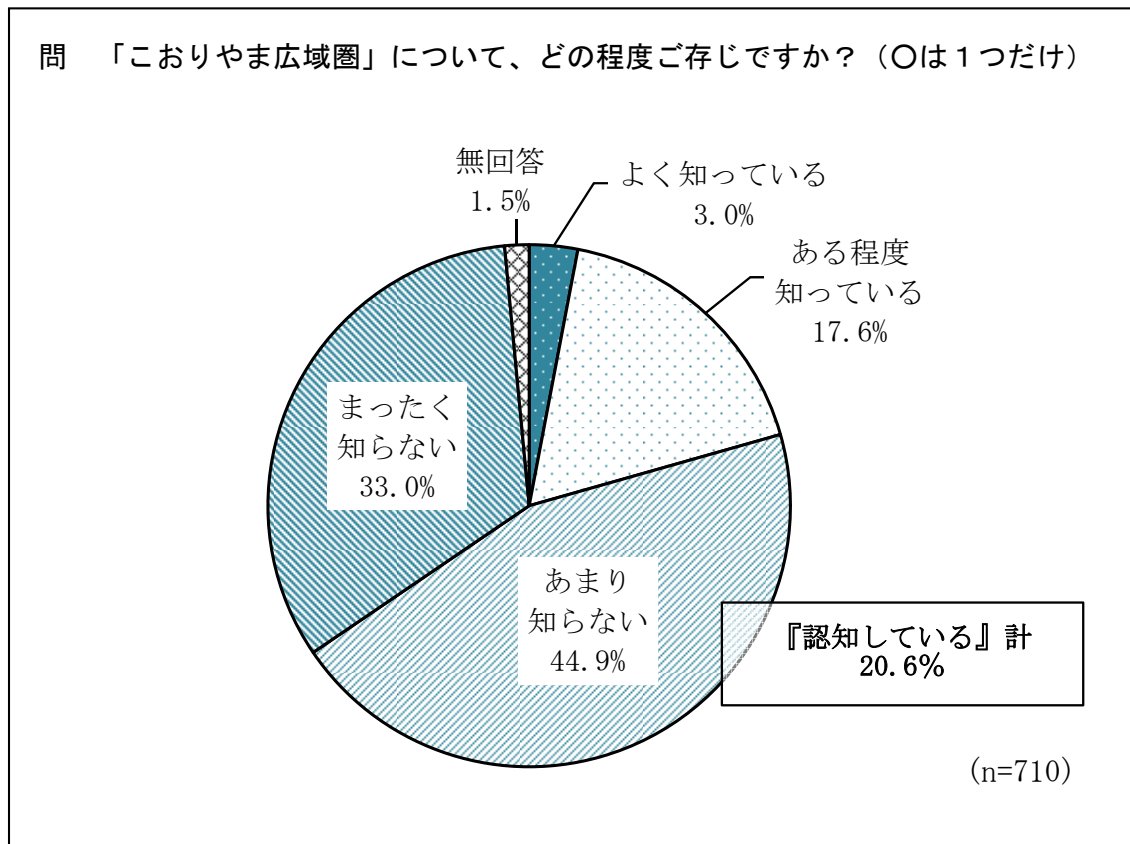
表 2－14 これからの取組について＜性別、年代別の上位5つ＞

	男 性	女 性
1位	子育て (35.3%)	雇用・就労 (36.5%)
2位	雇用・就労 (32.0%)	高齢者福祉 (34.2%)
3位	産業創出・ 企業誘致 (24.5%)	子育て (30.3%)
4位	高齢者福祉 (22.9%)	学校教育 (25.1%)
5位	計画的な 都市づくり (19.0%)	医療 (19.4%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1位	学校教育 (54.5%)	子育て (69.6%)	子育て (54.3%)	子育て (35.4%)	雇用・就労 (39.4%)	雇用・就労 (36.5%)	高齢者福祉 (40.3%)
2位	音楽の まちづくり (36.4%)	雇用・就労 (37.0%)	雇用・就労 (41.4%)	雇用・就労 (30.0%)	高齢者福祉 (30.7%)	子育て (32.0%)	産業創出・ 企業誘致 (29.9%)
3位	雇用・就労 (27.3%)	乳幼児教育・ 家庭教育 (28.3%)	医療 (30.0%)	学校教育 (27.7%)	子育て (23.6%)	高齢者福祉 (29.8%)	雇用・就労 (26.9%)
4位	健康づくり (27.3%)	医療 (26.1%)	防災 (22.9%)	高齢者福祉 (27.7%)	学校教育 (23.6%)	学校教育 (21.3%)	除去土壌等 の搬出 (21.6%)
5位	医療 (27.3%)	観光 (23.9%)	交通・道路 (22.9%)	計画的な 都市づくり (23.8%)	計画的な 都市づくり (22.0%)	防犯・交通安全 ・消費者対策 (19.7%)	地域産業 (18.7%)

3. 連携中枢都市圏について

(1) こおりやま広域圏の認知状況



————— こおりやま広域圏を認知している市民は2割 —————

【全体結果】

こおりやま広域圏の認知状況については「よく知っている」(3.0%)、「ある程度知っている」(17.6%)で両者を合計した『認知している』計(20.6%)は約2割にとどまっています。

一方、「あまり知らない」(44.9%)と「まったく知らない」(33.0%)を合計した『認知していない』計は8割弱(77.9%)を占めています。

「こおりやま広域圏」は、2018年度中の形成に向け、関係14市町村とともに手続きを進めている段階であり、今後、住民の皆様には具体的な取組などを周知していく必要があります。

【属性別結果】(図3-1 参照)

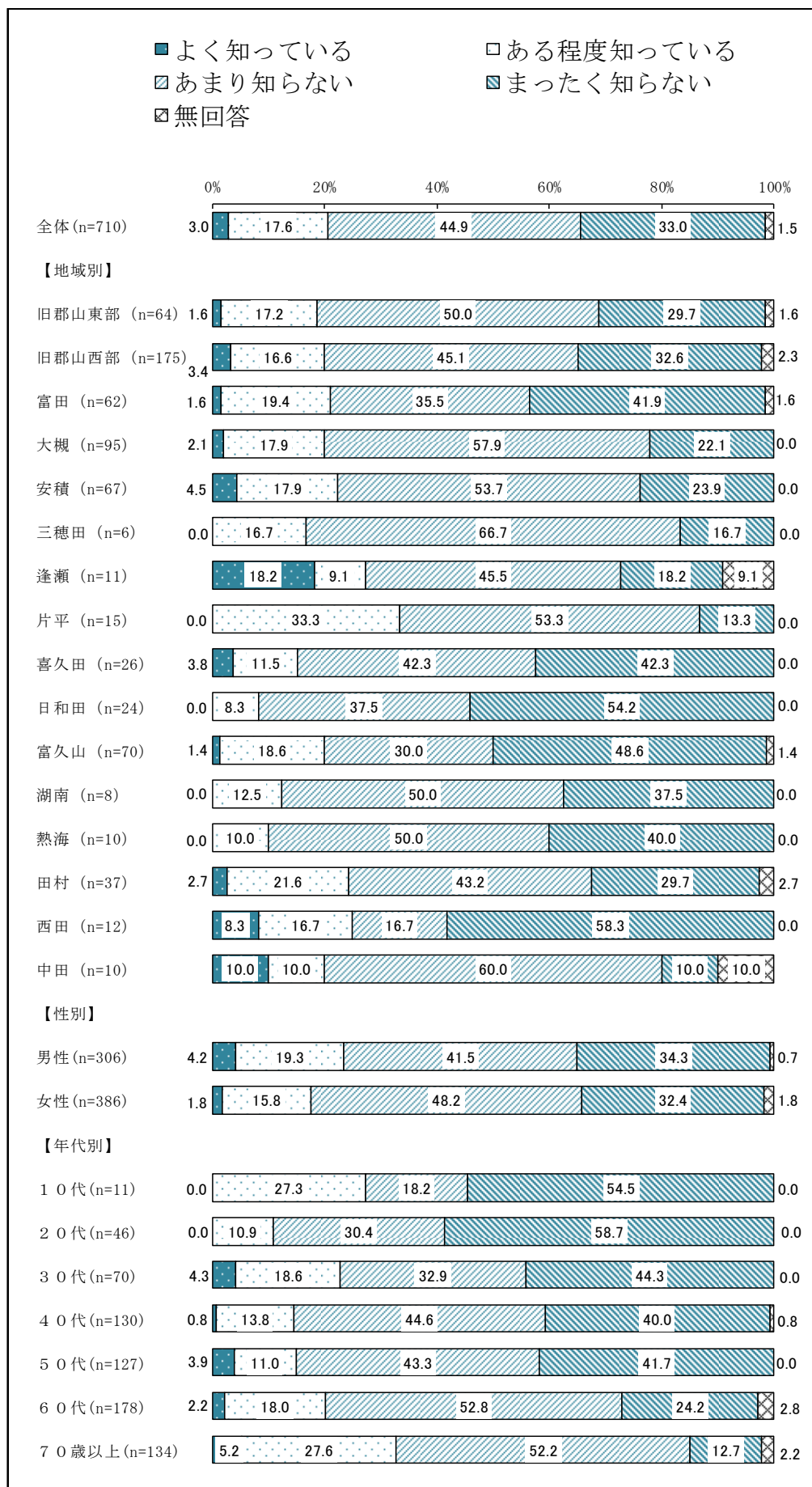
①性別

『認知している』計の割合は、男性(23.5%)の方が女性(17.6%)よりもやや高くなっています。

②年代別

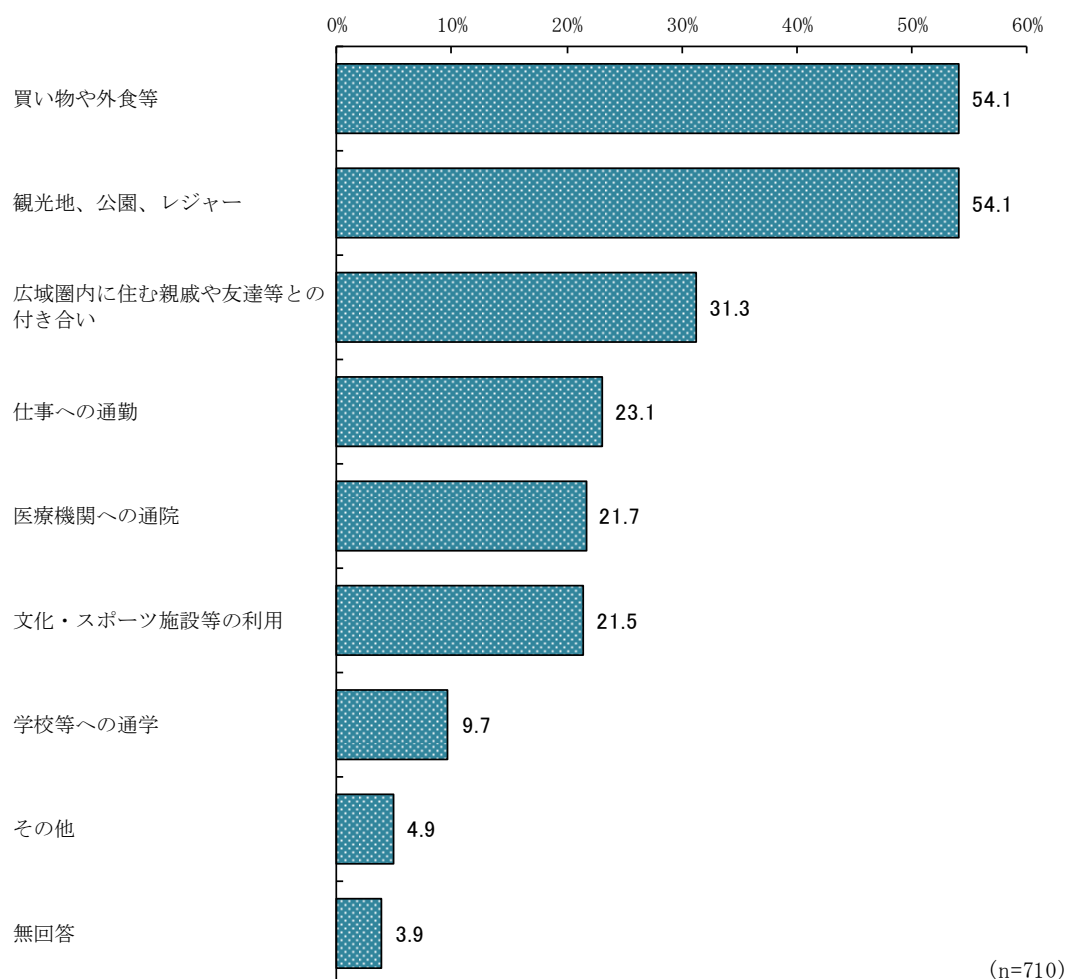
『認知している』計の割合は、70歳以上(32.8%)で最も高くなっています。一方で、最も低いのは20代(10.9%)でした。

図 3-1 こおりやま広域圏の認知状況（地域別／性別／年代別）



（２）こおりやま広域圏と関わる場面

問 こおりやま広域圏の１４市町村とは、どのような機会に関わることが多いですか？（○はいくつでも）



こおりやま広域圏と関わる場面が最も多いのは

『買い物や外食等』と『観光地、公園、レジャー』

【全体結果】

「買い物や外食等」と「観光地、公園、レジャー」（ともに 54.1%）の割合が最も高くなっています。以下、「広域圏内に住む親戚や友達等との付き合い」（31.3%）、「仕事への通勤」（23.1%）の順で続いています。

生活圏、経済圏をともしする本圏域において、買い物やレジャーといった余暇活動における交流が多くなっています。

【属性別結果】（図 3-2 参照）

①性別

「買い物や外食等」の割合は、女性（59.3％）の方が男性（48.0％）よりも高くなっています。

②年代別

「観光地、公園、レジャー」の割合は、30代（67.1％）で最も高く、70歳以上（45.5％）が最も低くなっています。

図 3-2 こおりやま広域圏と関わる場面①（地域別／性別／年代別）



図 3-2 こおりやま広域圏と関わる場面②（地域別／性別／年代別）

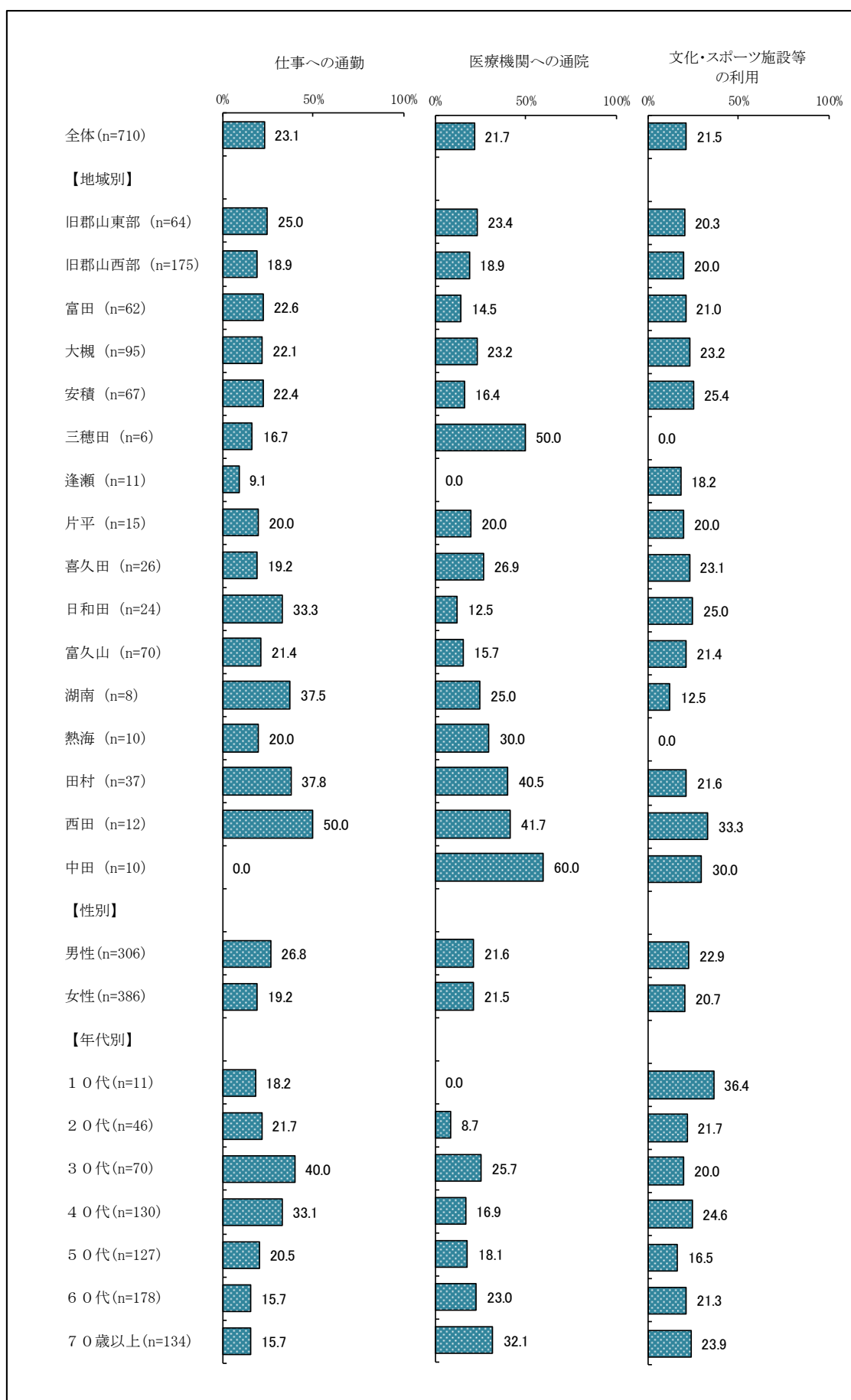
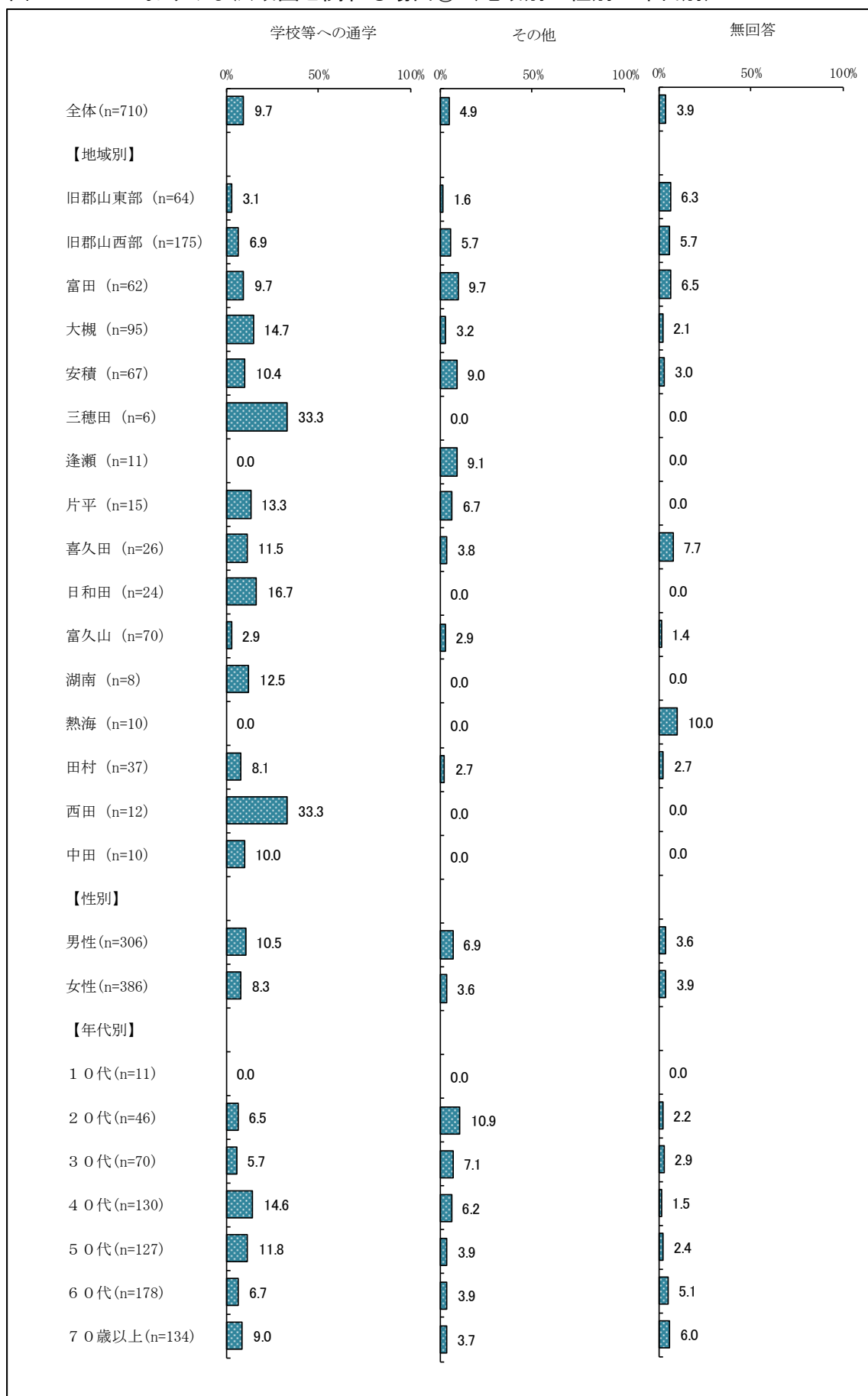
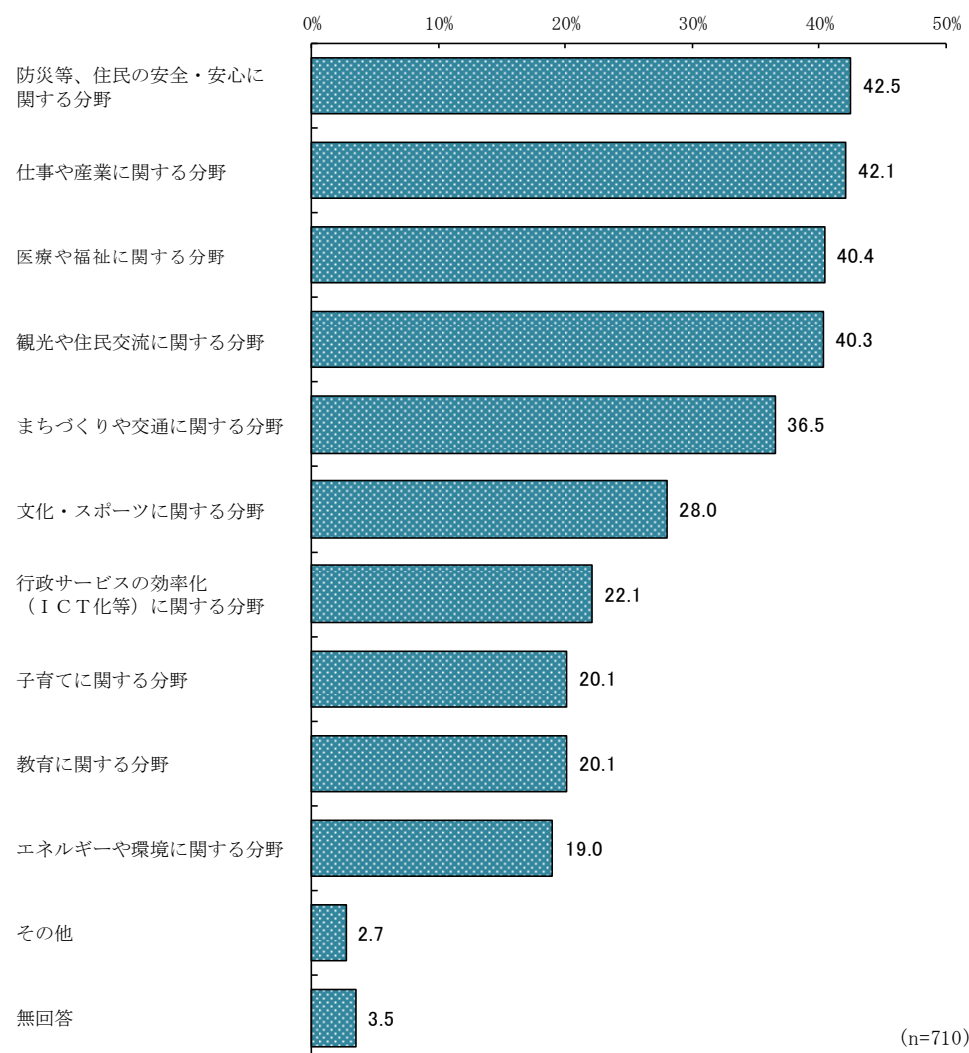


図 3-2 こおりやま広域圏と関わる場面③（地域別／性別／年代別）



（３）近隣市町村と連携を深めるべき分野について

問 今後、どのような分野で近隣市町村と連携を深めていくのがよいと考えますか？（○はいくつでも）



『防災等、住民の安全・安心に関する分野』

での連携を深めるべきとの考えが最も多い

【全体結果】

「防災等、住民の安全・安心に関する分野」（42.5％）の割合が最も高くなっています。以下、「仕事や産業に関する分野」（42.1％）、「医療や福祉に関する分野」（40.4％）の順で続いています。

圏域の大部分が阿武隈川の流域であり、また、県中医療圏を基本とした広域医療の中心でもある本市において、防災や医療分野での連携が強く進められています。また、通勤通学や経済活動において、人、モノ、情報の往来が多いことを背景に、催しや住民交流、交通面での連携も求められています。

【属性別結果】（図 3-3 参照）

①性別

「仕事や産業に関する分野」の割合は、男性（45.1%）の方が女性（39.4%）よりもやや高くなっています。

②年代別

「防災等、住民の安全・安心に関する分野」の割合は、70 歳以上（59.7%）で最も高く、20 代（17.4%）が最も低くなっています。

図 3-3 近隣市町村と連携を深めるべき分野について①（地域別／性別／年代別）



図 3-3 近隣市町村と連携を深めるべき分野について②（地域別／性別／年代別）

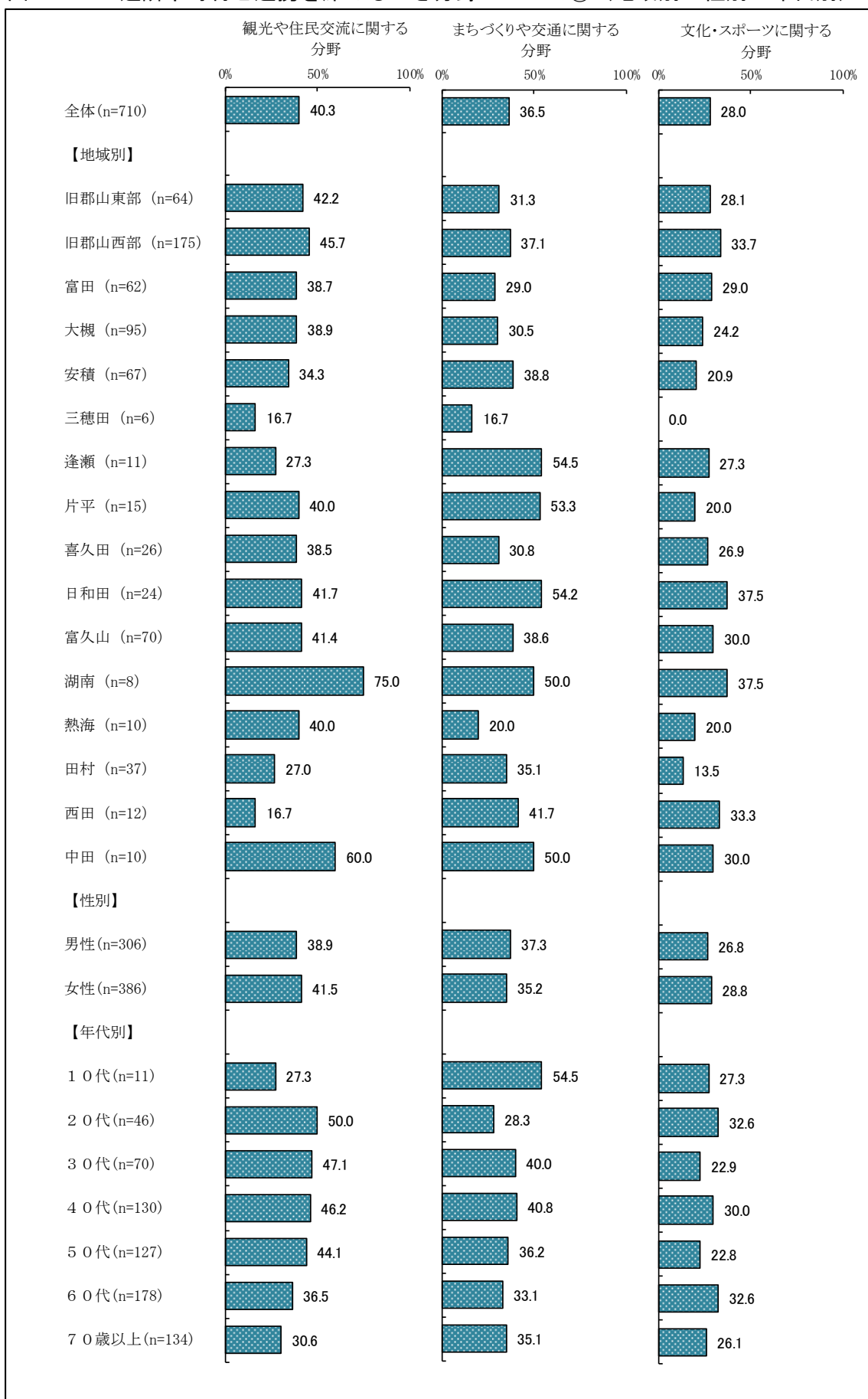


図 3-3 近隣市町村と連携を深めるべき分野について③（地域別／性別／年代別）

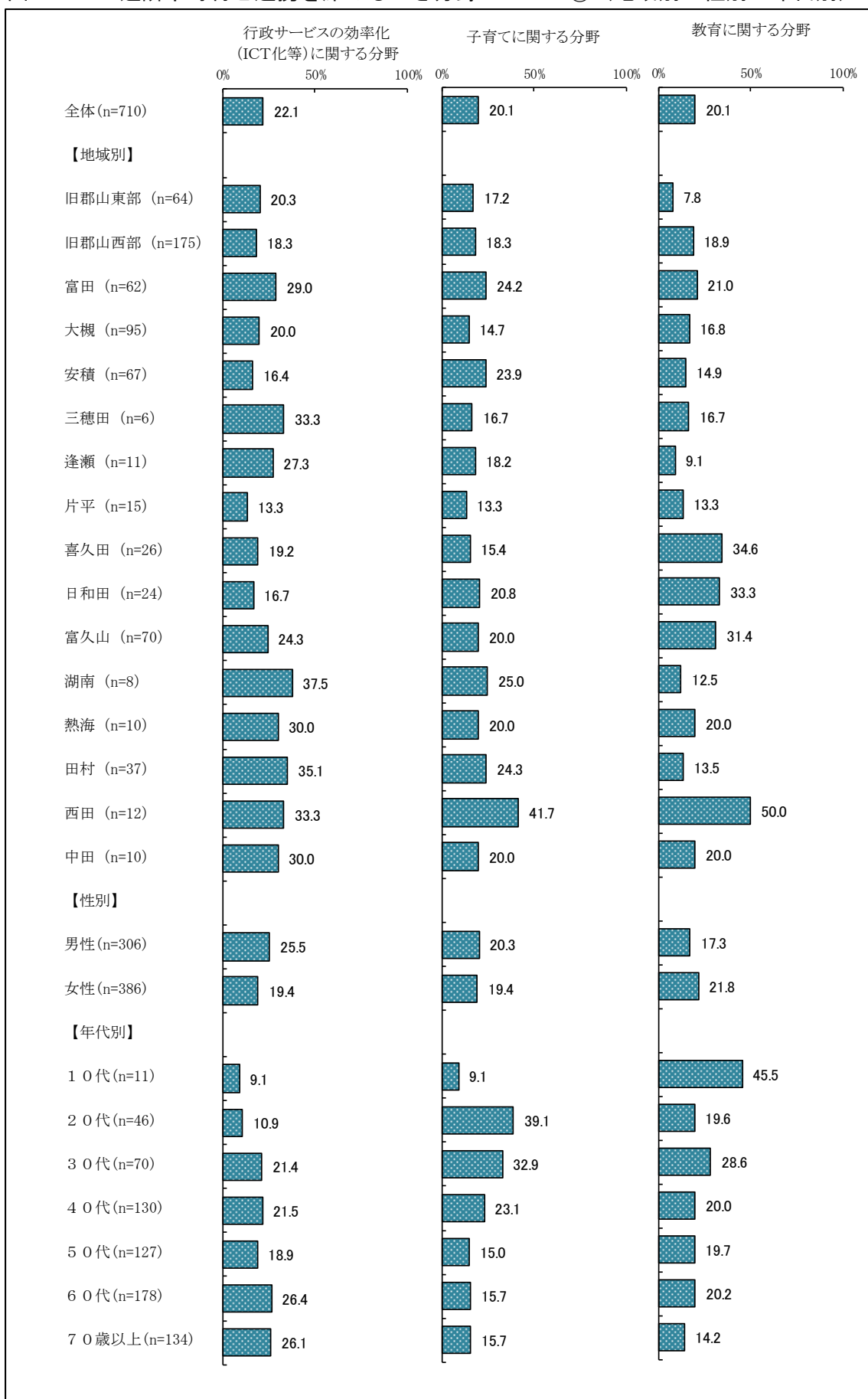
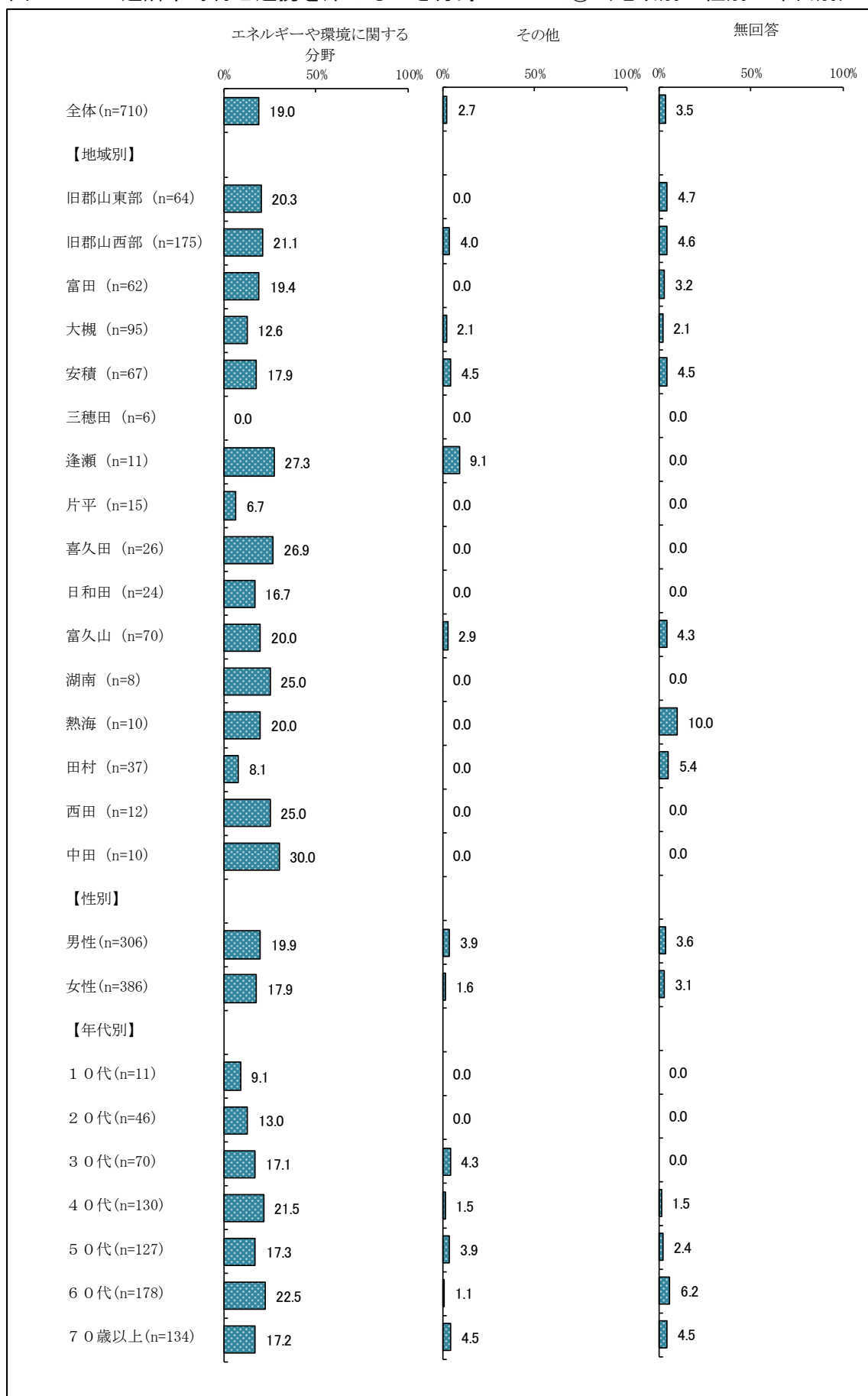


図 3-3 近隣市町村と連携を深めるべき分野について④（地域別／性別／年代別）



4. 市への意見や要望など

問 市に対するご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。
(自由記載)

現在、郡山市が進めているまちづくり（取り組み）についてたくさんのご意見が寄せられました。その中から、主な意見を分野ごとに抜粋し、掲載しました。

寄せられましたご意見につきましては、ここに掲載していないものも含め、今後の市政運営に活用させていただきます。

【分野Ⅰ】産業・仕事の未来

【地域産業】

- ・ 商工業において、既存の中小企業の安定的な発展も重要であると思う。
(60代・男性)

【起業支援】

- ・ 起業したい人がこの町でしたくなるような大胆な制度制定と、全国に向けてのPRをするべきだ。(50代・男性)

【産業創出・企業誘致】

- ・ 工場、商業施設の誘致を推進してもらいたい。(40代・男性)

【雇用・就労】

- ・ 雇用が増えてほしい。空き店舗の活用や学校の空いている教室の活用(小・中学校)を希望する。(50代・女性)

【農林業】

- ・ 林業についての情報を市がもっと発信してほしい。(40代・男性)

【特産品ブランド化】

- ・ 郡山市の特色を活かしてほしい。もっと大々的にPRし、改革案をたくさん出してほしい。(20代・女性)

【分野Ⅱ】交流・観光の未来

【都市間交流・国際交流】

- ・ 猪苗代や会津との横軸連携強化を期待している。(40代・男性)

【歴史・文化遺産】

- ・ 郡山市の安積疏水を通じて人口7000人から34万人の大都市となった。疏水を通じて、工業都市となった極めて特色のある市である。県庁所在地でもなく港もなく、城下町・門前町でもなかったことをもっとアピールすべきであると思う。
(60代・男性)

【音楽のまちづくり】

- ・ 音楽活動が小・中学校で盛んなので、市民、大人も参加できるような交流会、イベントがあればよいと思います。がくと館や、開成山広場などもっと使いやすく整備してほしいです。(40代・女性)

【観光】

- ・ 秋の例大祭が素晴らしい事があまり知られていません。(70歳以上・女性)

【シティプロモーション】

- ・ 図書館や公民館でのイベントを通じて情報を発信する。白河市のように萌えキャラ、ゆるキャラ、ヒーローを使って魅力を発信するのも面白そう。(20代・男性)

【分野Ⅲ】 学び育む子どもたちの未来

【子育て】

- ・ 少子高齢化の時代。雇用条件を改善して安心して子育て出来る環境作り。
(50代・男性)

【乳幼児教育・家庭教育】

- ・ 保育所(士)が足りないと思う。もっと増やしてほしい。(60代・男性)

【青少年健全育成】

- ・ 不登校・いじめ等が増加する傾向があるなか、それらに対する対策を考える必要がある。(60代・男性)

【学校教育】

- ・ 英語や音楽にもっと力を入れてほしい。小学生の鼓笛隊をさくら通りでできるようにしてほしい。(60代・男性)

【地域学習】

- ・ 子どもが大人になっても住んでいたいというまちづくりができるとういことです。(60代・男性)

【分野Ⅳ】 誰もが地域で輝く未来

【市民協働】

- ・ 市民協働の「社会参加ができる機会や場」という存在を知らなかったなので、もっとアピールするとよいと思います。(30代・女性)

【地域コミュニティ】

- ・ 地域ごとのコミュニケーションは強いと思うので、地域コミュニティはほぼ問題ないと思う。(30代・男性)

【広聴広報】

- ・ 毎月発行の広報こおりやまを楽しみにしておりますが、活字をもう少し大きく印字して頂ければ大変うれしいです。(少し目が不自由な為)広告欄を少し減らすとか？(70歳以上・男性)

【スポーツ・文化・芸術】

- ・ 高齢者が歩けるようなプールがあればよい。市民プールは入場料が高い。
(60代・女性)

【生涯学習】

- ・ 生涯学習についてはあさかの学園大学等、地域社会等整っています。養護老人ホームを増設してほしいです。(60代・女性)

【地域福祉】

- ・ それぞれの自分のできることで人の役に立てることがあればと考えている人は多いと思います。そんなことを思っている方が自分の得意なことを活かせる地域であればと思います。(60代・女性)

【高齢者福祉】

- ・ 高齢者福祉施設の増設や施設の一覧表等があれば市役所で誰でも見られる(閲覧)よう開示してほしい。(50代・女性)

【障がい者福祉】

- ・ 障がい者雇用の促進、ASD、ADHD といった発達障がいが安心して働けるようになってほしい。支援制度を充実させ広めてほしい。(20代・男性)

【健康づくり】

- ・ 市民が健康づくりに積極的に参加出来るような取り組みが沢山あればよいと思う。町単位や方部単位での健康指導などあればよいと思う。(30代・男性)

【医療】

- ・ 交通が不便で医者や買物に簡単に行けない。(70歳以上・女性)

【男女共同参画】

- ・ 男女参画等の内容を知らない。PR されてない。(70歳以上・男性)

【分野Ⅴ】暮らしやすいまちの未来

【環境活動】

- ・ 環境活動や資源の有効活用ができていないと思います。打ち出し方を考え、なぜそうするのかを明確にし、市民にアピールしてほしいです。(30代・女性)

【3R（資源の有効利用）】

- ・ ゴミの仕分けはもっと細かくてもよいように思える。そうすることでリサイクルへの意識を高められたらよい。(20代・男性)

【自然環境】

- ・ 私の町にも森林公園がほしい。(40代・女性)

【防災】

- ・ 今はどこでどんな災害に見舞われるかわからない時代であるので災害に強いまちづくりを推進してほしい。(60代・女性)

【防犯・交通安全・消費者対策】

- ・ 防犯カメラの設置は急務。障がい者が不自由なく動ける通路整備を期待している。
(40代・男性)

【ユニバーサルデザイン】

- ・ 高齢者の施設は多く建設され充実しているが、障がい者のは少ない。(50代・女性)

【交通・道路】

- ・ 福島市のように100円バス区間がもう少し遠くまでであるとよい。できれば駅から市役所まわりとか。(60代・女性)

【計画的な都市づくり】

- ・ 中心市街地の本町には大正時代からの建物が残っているので、古民家をいかした町並みが整えば魅力的で人の集まる場所になるのでは？時計の電池交換や自転車のパンク修理をしていただけるお店があることは生活に定着していてとても助かり感謝しています。(小原田～本町の旧国道沿い)(50代・女性)

【住環境】

- ・ 道路沿いの除草、住民地内の公園の樹木の剪定等を地域の申し出の前に計画的に行ってほしい。(20代・男性)

【分野Ⅵ】 横断的取組

【除去土壌等の搬出】

- ・ 線量計(公園などにある)をなくさないでほしい。(40代・女性)

【健康管理】

- ・ 孫がまだ小さいので将来やはり被ばくしていないか心配はあります。(60代・女性)

【風評の払しょく】

- ・ 風評に対してはもっとあらゆる機会を捉えてのPRの継続(60代・男性)

【分野Ⅶ】 基盤的取組

【行政経営】

- ・ マイナンバーの有効活用の発案を希望します。(30代・男性)

【セーフコミュニティ】

- ・ 安全安心のために事故が起こりやすい場所には信号機や横断歩道を整備してほしい。(20代・男性)

【連携中枢都市圏構想】

- ・ もっと隣県との交流を進めてもらいたい。(70歳以上・男性)

(付) 調 査 票 様 式

あなたの声をお聞かせください

～ 2018年度郡山市民意見レーダー ～



<ご記入に当たってのお願い>

- この調査は、市内にお住いの満18歳以上の方々の中から、1,500人を無作為に選び、郵送された調査票にお答えいただく方法で実施いたします。
- この調査は無記名式で、回答は統計的に処理いたしますので、ご協力いただいた方を特定することやご迷惑をおかけすることは一切ございません。
ぜひ、率直なご意見や考えをお知らせください。
- この調査は、個人を対象にしていますので、あなた（あて名の方）ご自身の判断でお答えください。
- 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あてはまる項目の番号を○印で囲んでください。また、ご回答は、「あてはまる番号を1つだけ選び○をつけてください」「あてはまる番号をいくつでも選び○をつけてください」等と質問文に対応したご記入をお願いいたします。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）をお使いのうえ、切手を貼らずに**9月20日（木）**までに、郵便ポストに投函してください。
調査票や返信用封筒へは、お名前、具体的な住所の記入は不要です。

また、スマートフォン・パソコンからもご回答いただけます。
右記のQRコード、又は下記の検索等でアクセスのうえご利用ください。

〔アクセス方法〕

ふくしま電子申請

検索

⇒「ふくしま電子申請」を検索



⇒「ふくしま県市町村共同電子申請システム団体選択-福島県ホームページ」
をクリックし「郡山市」を選択 ⇒「2018年度郡山市民意見レーダー」を選択

〔入力方法〕

1. 「かんたん申請・申込システム」の画面に移行します。ひとつの画面入力が終わりましたら「次へ」をクリックしてください。
2. 内容確認の画面が出ますので、修正がなければ「送信する」をクリックしてください。
3. 「受け付け」の画面が出たら終了です。

※入力による回答は、**9月20日（木）**までにお願いします。

※ 入力できる時間は**1時間以内**です。入力から1時間過ぎますと送信できなくなりますので、その際は改めてはじめてから入力をお願いします。

- ご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

<お問合せ先> 郡山市政策開発部広聴広報課

電 話：024-924-2061

Email: kocho@city.koriyama.lg.jp

東北のライオン
楽都郡山

1 郡山市の住みやすさについて

まちの住み心地や郡山市への愛着等について、どのように感じているか、あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

(1) あなたにとって、郡山市は住みやすいまちですか？

1. 住みやすい
2. どちらかといえば住みやすい
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば住みにくい
5. 住みにくい

(2) あなたは、今後も郡山市に住みたいと思いますか？

1. 現在の住所にずっと住み続けたい
2. 市内の別の地域に住みたい
3. どちらともいえない
4. いずれは市外に住みたい
5. 住みたくない

2 郡山市のまちづくりについて

現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、どのように感じているか、それぞれにあてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

【I. 産業・仕事の未来】 (商業・工業・雇用・農林業分野)		5	4	3	2	1	0
1. 地域産業	地域の中小企業の事業承継 ※1 やM&A ※2 など産業の活性化が図られているか ※1 会社等の経営を後継者に引き継ぐこと ※2 合併・買収	5	4	3	2	1	0
2. 起業支援	創業・起業がしやすい環境が整っているか	5	4	3	2	1	0
3. 産業創出・企業誘致	研究開発機関や大学等との連携により、再生可能エネルギー ※3 や医療機器関連産業など本市の強みを活かし、新しい分野の産業や企業の育成、誘致・集積等、産業の振興が図られているか ※3 石油・石炭などの限りがある化石燃料に対し、太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など一度利用しても比較的短期間に再生するエネルギー源のこと	5	4	3	2	1	0
4. 雇用・就労	市内企業の安定的な雇用があり、やりがいを持って就労できる労働環境が整っているか	5	4	3	2	1	0
5. 農林業	農林業の生産性向上、担い手の確保等により活性化が図られているか	5	4	3	2	1	0
6. 特産品ブランド化	食や農を生かした特産品がブランド化され、注目されているか	5	4	3	2	1	0
【I. 産業・仕事の未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。							

【Ⅱ. 交流・観光の未来】 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野)	よい	まあまあ	普通	やや不満	不満	わからない
7. 都市間交流・国際交流 様々な地域や国の人々との交流・活動を通じ、友好や相互理解を深める等、国内外に開かれたまちとなっているか	5	4	3	2	1	0
8. 歴史・文化遺産 日本遺産など豊かな歴史に根ざした地域資源が適切に保存されるとともに観光のまちづくりに活かされているか	5	4	3	2	1	0
9. 音楽のまちづくり 音楽に触れる機会や環境が整い、音楽がまちづくりに活かされているか	5	4	3	2	1	0
10. 観光 観光資源の活用やコンベンション ※1 の誘致と、観光の振興や誘客により国内外の交流人口の拡大が図られているか ※1 企業の展示会や学会等の学術会議、国内外の研究者が集う国際会議等	5	4	3	2	1	0
11. シティプロモーション ※2 本市の魅力が広く内外に発信され、知名度が向上し、交流人口増加や移住・定住の促進が図られているか ※2 地域のイメージを高め、知名度の向上や地域への愛着を醸成する手法	5	4	3	2	1	0
【Ⅱ. 交流・観光の未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。						

【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】 (子育て・教育・地域学習分野)	よい	まあまあ	普通	やや不満	不満	わからない
12. 子育て 安心して生み育てる環境が整っているか	5	4	3	2	1	0
13. 乳幼児教育・家庭教育 家庭、地域、企業そして子育て・教育機関が連携して、子育てや教育を学びあう環境が整っているか	5	4	3	2	1	0
14. 青少年健全育成 子どもたちの安全な居場所や地域での見守りなど、健全に育つ環境が整っているか	5	4	3	2	1	0
15. 学校教育 子どもたちの「生きる力」となる思考力、判断力、表現力等を育み、これからの時代に求められる英語やICT ※1 教育などの資質・能力を身につけられる質の高い教育環境が整っているか ※1 情報通信技術	5	4	3	2	1	0
16. 地域学習 子どもたちの地域への愛着を育む、地域活動への参加機会や地域の産業、生活、文化、歴史などを学ぶ環境が充実しているか	5	4	3	2	1	0
【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。						

【Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来】 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野)	よい	まあまあ	普通	やや不満	不満	わからない
17. 市民協働 ※1 市民誰もが、知識や経験、個性に応じ、様々な社会参加ができる機会や場があるか ※1 市民・市民活動団体・企業・行政等が、お互いの立場や特性、目的を認め合い、役割を分担した上で対等の立場で協力し合うこと	5	4	3	2	1	0
18. 地域コミュニティ 町内会活動など地域コミュニティの活性化が図られているか	5	4	3	2	1	0
19. 広聴広報 市政に関する情報の公開や市民からの意見・提案の募集、市民参加のイベントなど市政への市民参画が図られているか	5	4	3	2	1	0
20. スポーツ・文化・芸術 多様なスポーツ、文化・芸術に触れる機会や活動する場などの環境が整っているか	5	4	3	2	1	0
21. 生涯学習 生涯を通じて、好きなこと、得意なことを学習でき、それらを地域社会で生かせる機会や場などの環境が整っているか	5	4	3	2	1	0
22. 地域福祉 地域や隣近所で互いに支えあい、助け合う体制が整っているか	5	4	3	2	1	0
23. 高齢者福祉 介護予防対策や介護サービスの質の確保・向上など高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせる環境が整っているか	5	4	3	2	1	0
24. 障がい者福祉 障がい者差別の解消や就労等社会参加の促進など障がい者の生活を支える環境が整っているか	5	4	3	2	1	0
25. 健康づくり 生活習慣病予防対策、健診体制や健康相談等、健康に暮らすための支援体制が充実しているか	5	4	3	2	1	0
26. 医療 必要なときに安心かつ適切な医療を受けられる体制が充実しているか	5	4	3	2	1	0
27. 男女共同参画 家庭や地域、職場において、男女が共に個性と能力を発揮できているか	5	4	3	2	1	0
<u>【Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。</u>						

【V. 暮らしやすいまちの未来】 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野)	よい	まあまあ	普通	やや不満	不満	わからない
28. 環境活動 温室効果ガス排出量削減の普及啓発等、環境負荷の小さなまちづくりへの取り組みが進んでいるか	5	4	3	2	1	0
29. 3R ※1 (資源の有効利用) ごみ減量、リサイクルの推進等、ごみの発生を抑え、資源を有効に循環させる取り組みが進んでいるか ※1 「Reduce (発生抑制)」「Reuse (再使用)」「Recycle (再生利用)」の頭文字をとった言葉	5	4	3	2	1	0
30. エネルギー 省エネルギーの推進や環境にやさしい再生可能エネルギー ※2 などの取り組みが進んでいるか ※2 石油・石炭などの限りがある化石燃料に対し、太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱など一度利用しても比較的短期間に再生するエネルギー源のこと	5	4	3	2	1	0
31. 自然環境 豊かな自然が適正に保全され、それらと身近にふれあえる環境が整っているか	5	4	3	2	1	0
32. 防災 ライフラインの確保や情報の共有化、消防、救急体制の整備、自然災害対策等、防災に対する備えができているか	5	4	3	2	1	0
33. 防犯・交通安全・消費者対策 犯罪の未然防止、通学路や生活道路等の交通安全対策、消費者対策により、安心して生活することができているか	5	4	3	2	1	0
34. ユニバーサルデザイン ※3 障がいの有無や年齢等に関わらず、誰もが快適に暮らすことができる取り組みが進んでいるか ※3 障がいの有無や年齢、国籍、性別などの違いに関わらず、はじめてからできるだけ多くの人が使いやすい製品や建物、都市環境、サービス等の提供を目指そうという考え方のこと	5	4	3	2	1	0
35. 交通・道路 生活に必要な拠点や施設へのアクセスが容易であるなど、利便性の高い交通体系が整っているか	5	4	3	2	1	0
36. 計画的な都市づくり 中心市街地の活性化や地域特性を生かした良好なまちなみが整っているか	5	4	3	2	1	0
37. 住環境 公園や生活道路、上下水道等が整備されているとともに、景観への配慮等、住環境が整っているか	5	4	3	2	1	0
【V. 暮らしやすいまちの未来】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。						

【横断的取組】 (復興・創生の更なる推進)	よい	まあまあ	普通	やや不満	不満	わからない
38. 除去土壌等の搬出 除染により生じた除去土壌等の中間貯蔵施設への輸送が計画的に進んでいるか	5	4	3	2	1	0
39. 健康管理 内部被ばく検査や自家消費野菜等の放射能検査、心や体のケアに関する健康相談体制の充実等、健康管理が図られているか	5	4	3	2	1	0
40. 風評の払しょく 郡山製品の安全性のPR、販路の拡大及び観光誘客等により、風評の払しょくが図られているか	5	4	3	2	1	0
【横断的取組】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。						

【基盤的取組】 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏)	よい	まあまあ	普通	やや不満	不満	わからない
41. 行政経営 ICT ※1 の積極的な活用、官民連携による様々な手法やノウハウの柔軟な導入など先進的で効率的な行政経営の改善が図られているか ※1 情報通信技術	5	4	3	2	1	0
42. セーフコミュニティ ※2 安全・安心に包まれたまちづくりのため、地域全体でセーフコミュニティ活動への取り組みを推進しているか ※2 WHO（世界保健機関）が推奨する国際認証制度で「けがや事故」をデータから客観的に分析し、様々な団体との「協働」により「けがや事故」の予防に取り組んでいる地域のこと	5	4	3	2	1	0
43. 連携中枢都市圏構想 ※3 「連携中枢都市圏」の推進により、圏域全体の経済活性化や広域的な課題解決が図られているか ※3 一定要件を満たす連携中枢都市と近隣市町村との連携協約により圏域の活性化を図る構想	5	4	3	2	1	0
【基盤的取組】について、ご意見やご提案がありましたら、ご自由にお書きください。						

3 郡山市のこれからの取組について

現在、本市が進めているまちづくり（取り組み）について、特に重要と思われるものの番号を5つ選び、その番号に○印をつけてください。

【Ⅰ. 産業・仕事の未来】 (商業・工業・雇用・農林業分野) 1. 地域産業 2. 起業支援 3. 産業創出・企業誘致 4. 雇用・就労 5. 農林業 6. 特産品ブランド化 【Ⅱ. 交流・観光の未来】 (交流・文化・観光・シティプロモーション分野) 7. 都市間交流・国際交流 8. 歴史・文化遺産 9. 音楽のまちづくり 10. 観光 11. シティプロモーション 【Ⅲ. 学び育む子どもたちの未来】 (子育て・教育・地域学習分野) 12. 子育て 13. 乳幼児教育・家庭教育 14. 青少年健全育成 15. 学校教育 16. 地域学習 【Ⅳ. 誰もが地域で輝く未来】 (市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野) 17. 市民協働 18. 地域コミュニティ 19. 広聴広報 20. スポーツ・文化・芸術 21. 生涯学習 22. 地域福祉 23. 高齢者福祉 24. 障がい者福祉 25. 健康づくり 26. 医療 27. 男女共同参画	【Ⅴ. 暮らしやすいまちの未来】 (環境・防災・市民安全・生活インフラ分野) 28. 環境活動 29. 3R(資源の有効利用) 30. エネルギー 31. 自然環境 32. 防災 33. 防犯・交通安全・消費者対策 34. ユニバーサルデザイン 35. 交通・道路 36. 計画的な都市づくり 37. 住環境 【横断的取組】 (復興・創生の更なる推進) 38. 除去土壌等の搬出 39. 健康管理 40. 風評の払しょく 【基盤的取組】 (行政経営・セーフコミュニティ・連携中枢都市圏) 41. 行政経営 42. セーフコミュニティ 43. 連携中枢都市圏構想
---	--

4 連携中枢都市圏について

国では、相当の規模と中核性を備える圏域において市町村が様々な分野で連携し、コンパクト化とネットワーク化により、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点「連携中枢都市圏」の形成を進めています。

本市では、近隣市町村とともに「こおりやま広域連携中枢都市圏（略称：こおりやま広域圏）」の形成を推進しており、広域観光や移住・定住促進等、様々な事業に連携して取り組んでいるところです。

推進にあたり、以下の項目について、ご意見をお聞かせください。

【参考】「こおりやま広域圏」15市町村（4市7町4村） ※2018年8月時点
郡山市（中心市）、須賀川市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町

- (1) 「こおりやま広域圏」について、どの程度ご存じですか？
あてはまる番号を1つ選び、○印をつけてください。

- | |
|--------------|
| 1. よく知っている |
| 2. ある程度知っている |
| 3. あまり知らない |
| 4. まったく知らない |

- (2) こおりやま広域圏の14市町村とは、どのような機会に関わることが多いですか？
あてはまる番号を全て選び、○印をつけてください。

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1. 買い物や外食等 | 6. 観光地、公園、レジャー |
| 2. 仕事への通勤 | 7. 広域圏内に住む親戚や友達等との付き合い |
| 3. 学校等への通学 | 8. その他 |
| 4. 医療機関への通院 | (具体的に) |
| 5. 文化・スポーツ施設等の利用 | |

- (3) 今後、どのような分野で近隣市町村と連携を深めていくのがよいと考えますか？
あてはまる番号を全て選び、○印をつけてください。

- | | |
|-------------------|-----------------------------|
| 1. 仕事や産業に関する分野 | 8. 防災等、住民の安全・安心に関する分野 |
| 2. 観光や住民交流に関する分野 | 9. エネルギーや環境に関する分野 |
| 3. まちづくりや交通に関する分野 | 10. 行政サービスの効率化（ICT化等）に関する分野 |
| 4. 医療や福祉に関する分野 | 11. その他 |
| 5. 子育てに関する分野 | (具体的に) |
| 6. 教育に関する分野 | |
| 7. 文化・スポーツに関する分野 | |

5 あなたご自身について

あなたご自身のことについてお伺いします。

(1)～(8)のそれぞれについて、あてはまる番号に○印をつけてください。

(1) 性別 (あてはまる番号1つに○)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

(2) 年齢 (あてはまる番号1つに○)

1. 18歳～19歳	5. 50歳～59歳
2. 20歳～29歳	6. 60歳～69歳
3. 30歳～39歳	7. 70歳以上
4. 40歳～49歳	

(3) 職業 (あてはまる番号1つに○)

1. 農業	5. 主婦・主夫
2. 給与所得者	6. 学生
3. 自営業者	7. 無職
4. パート・アルバイトなど	8. その他

(4) 郡山市での居住年数 (あてはまる番号1つに○)

1. 1年未満	4. 10～19年
2. 3年未満	5. 20～29年
3. 3～9年	6. 30年以上

(5) 居住形態 (あてはまる番号1つに○)

1. 持ち家	4. 社宅、公舎など
2. 民間の借家・アパート	5. 間借、同居、寮など
3. 公営住宅	

(6) 現住所の直前に住んでいたところ (あてはまる番号1つに○)

1. 生まれてからずっと現住所に住んでいる	4. 東京圏 ※1
2. 郡山市内の別の地域	5. その他 ※2 ()
3. 郡山市外で福島県内	

※1 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県 ※2 福島県、東京圏以外の居住地

(7) 上の質問(6)で、「2.～5.」に○を付けた方にお聞きします。

移転先として現住所を選んだ理由は何ですか？ (あてはまる番号全てに○)

1. 生まれ育った場所だから	11. 病院・医院が近くにあるから
2. 自分や家族の持ち家だから	12. 住まいの周辺が静かだから
3. 寮や社宅に住むから	13. 自然環境が身近にあるから
4. 親や子、親族、友人などがいるから	14. まちなみや景観がよいから
5. 家賃や住宅の価格が手ごろだから	15. 賑わいや活気があるから
6. 交通(通勤・通学・買い物等)の便がよいから	16. 犯罪が少ないと感じているから
7. 日ごろの買い物などが便利だから	17. 街のイメージがよいから
8. 保育所・公園等の子育て環境がよいから	18. 郡山が好きだから
9. 学校などの教育環境がよいから	19. 市民の気質や感性が自分と合うから
10. 文化・スポーツ施設などが近くにあるから	20. その他 ()

(8) お住まいの地域 (あてはまる番号1つに○)

1. 旧郡山東部 (芳賀・小原田・緑ヶ丘・東部地区など)
2. 旧郡山西部 (駅前・大島・久留米・菜根・開成・小山田地区など上記地区以外)
3. 富田
4. 大槻
5. 安積
6. 三穂田
7. 逢瀬
8. 片平
9. 喜久田
10. 日和田
11. 富久山
12. 湖南
13. 熱海
14. 田村
15. 西田
16. 中田

◆市に対するご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。◆

以上で、質問は終わりです。皆様方からいただきました貴重なご回答・ご意見等は、郡山市の今後の市政運営に反映させていきたいと考えております。

お忙しいところご協力をいただき感謝申し上げます。

※ お手数ですが、ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒 (切手不要) をお使いのうえ、切手を貼らずに9月20日(木)までに、郵便ポストに投函してください。

調査票や返信用封筒へは、お名前、具体的な住所の記入は不要です。

2018 年度 市民意見リーダー
調査結果報告書

平成 31 年 3 月 発行

郡山市政策開発部広聴広報課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目 23 番 7 号

電話番号 024(924)2061

E-Mail: kocho-kocho@city.koriyama.lg.jp